

2024年度版

事業概要

南部地域療育センターそよ風

南部地域療育センターそよ風

通園部「子ども像」

いのちを守り、いのちをつよくする子ども
ゆたかな要求をもち、意欲的に生活する子ども
ときどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども
人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども
人とともに育ちあえる子ども

相談診療部「理念」

「児童憲章前文」

児童は、人として尊ばれる
児童は、社会の一員として重んぜられる
児童は、よい環境の中で育てられる

私たちは、この「児童憲章前文」の精神を大切に、次のことを目指します。

生命と人権の尊重

- ・子どもたちの一人一人の生命をかけがえのないものとして大切にします
- ・子どもの人権を守り、最善の利益を追求します

家族や地域とともに

- ・子どもや保護者から学び、ともに育ちあう関係を大切にします
- ・地域の機関、組織と連携し、子どもや家族が地域で豊かに生活できることを目指します
- ・社会に目を向け、協働して現状の変革に努めます

療育の追求

- ・子どもが主体的に生きることを大切にします
- ・あそびや生活を豊かにし、人と関わる力を育てます
- ・豊かな人間性と、科学的な視点を持ち、療育の専門性を追求します

は じ め に

厚生労働省は、電子カルテ化を推進し、2023 年 10 月には、診療所 55%を超えたと言われています。

南部地域療育センターそよ風でも、診療録の電子化が決定しました。

小児科診療録が電子化されるとどうなるか、想像している毎日です。

今朝は令和 7 年 7 月 7 日、今日の仕事でどうなるかを想像してみます。

7 時 15 分に家を出て、8 時過ぎにそよ風に到着。

本日は月曜日。再診の児の予約が 5 名ありました。幸い午前中は一人でしたが、午後の再診は 4 人です。再診の前に過去の診療録で児の様子を確認し、診療録にまとめて記入する作業が必要で、一人 15 分で終わらせても、診察前の準備に 5 名いると 75 分を要します。その後、診察開始前に臨床心理士さんから説明を受けるのですが、これも診療録にメモをしています。診察時には、診察中の児の様子を入力することになります。

一般の小児科で、急性疾患について診療する場合と、神経発達症では記録する量が違います。

一方、30 年近く前に開所した当センターでは、保管するカルテも膨大になっています。一般の医療機関の診療録の保存期間は 5 年ですが、療育センターの診療録は児童記録の側面もあり長期間保管をすることになっています。今後も増え続ける、診療録の保管場所は大きな悩みであり、電子カルテ化の大きな利点です。

診療歴の長いお子さんでは、以前の記録を探すのも一苦労ですが、電子カルテでは検索が容易になるかと思われます。

また、今後進むであろう処方箋の電子化や、オンラインでの診療情報提供などへの対応もあるでしょう。

「効率化」が優先される一方で、当センターに相談にいらっしゃる児への対応が、丁寧さが欠けるようになってはいけません。デリケートな発達の様相や、保護者の方の事情や思いを尊重することも大事にしています。不安な点はありますが、支援内容の向上に結びつくものになるよう取り組んでいます。

南部地域療育センターそよ風

所長 外 園 芳 美

目 次

第 1 施設の概要	1
1. 施設の目的	1
2. 設置運営	1
3. 施設構成	1
4. 法人の経緯	1
5. 建物の概要	3
6. 事業の概要	3
(1) 事業の種類	3
(2) 担当地域	3
(3) 組織・職員体制	4
(4) 相談の流れ	5
第 2 発達相談事業	6
1. 新規相談	6
2. 発達検査および発達相談	11
(1) 新規相談児童の発達検査	11
(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談	11
(3) 検査結果	12
3. 初診前サポート事業	13
4. 療育グループ	15
(1) 就園前グループ	15
(2) 就園前グループアフターのつどい	21
(3) 並行グループ	22
5. 保護者向け学習会	26
(1) 年長児保護者向け学習会	26
第 3 医療事業	27
1. 診療	27
(1) 小児科	27
(2) 整形外科	31
(3) 耳鼻咽喉科	33
(4) 精神科	35
(5) 検査	36
(6) 診断書等発行	36
(7) 看護師の業務	37
2. 訓練	38
(1) 理学療法 (PT)	38
(2) 作業療法 (OT)	41
(3) 言語聴覚療法 (ST)	44
(4) 生活支援	47
(5) 学習会	50

(6) 音楽療法 (MT)	51
第4 通園事業	52
1. 施設概要	52
(1) 定員	52
(2) 対象児童	52
(3) クラス編成	52
(4) 通園形態	52
(5) 親子通園の種類	52
(6) 通園バス	52
2. 療育内容	52
(1) 子ども像	52
(2) 療育の視点	52
(3) 療育計画	54
3. 家族援助	59
4. 見守り一時支援	60
5. 2024年度のまとめ	61
6. 児童の状況	62
第5 地域支援調整事業	64
1. 地域連携	64
2. 巡回療育指導	66
3. 訪問療育指導	68
4. 通園部アフターケア	69
5. アフターケア	70
6. そよ風広場	70
7. きょうだいプログラム	70
8. 施設・プール開放	70
9. 地域啓発・ボランティア育成	70
10. 保育所等訪問支援事業	71
第6 児童デイサービス	72
1. デイサービス ACT	72
2. デイサービスみどりそよ風	74
第7 障害児相談支援事業所	76
第8 医療的ケア児等支援スーパーバイザー事業	78
資料 センター利用者数の10年間の推移（2015年度～2024年度）	80
平面図	83

第1 施設の概要

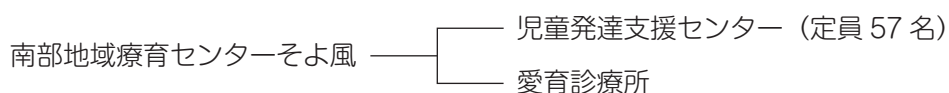
1 施設の目的

南部地域療育センターそよ風は、障害のある子ども、発達遅れや育ちに不安のある子ども等地域のすべての子どもの成長、発達を支援する。同時に、地域のなかで障害児とその家族があたりまえに暮らすための地域生活支援を行うことを目的に、通園事業、医療（訓練）事業、発達相談事業、地域ケア事業、生活支援事業、専門事業をすすめる。

2 設置運営

社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館

3 施設構成



- ・ 保険医療機関指定
- ・ 生活保護法医療機関指定
- ・ 公害医療機関指定
- ・ 運動器リハビリテーション（Ⅰ）基準承認
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）基準承認
- ・ 障害児（者）リハビリテーション基準承認 等

4 法人の経緯

1961 年 3 月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館設立
1961 年 4 月	社会館保育部認可
1966 年 4 月	心身障害幼児の通園施設「愛育園」開設
1973 年 4 月	「愛育園」（精神薄弱児通園施設、定員 30 人）認可
1987 年 3 月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館「将来構想」策定
1989 年 7 月	名古屋市「地域療育センター構想検討会報告書」策定
1992 年 2 月	「南部地域療育センター建設計画」策定
1996 年 4 月	「南部地域療育センターそよ風」竣工
1998 年 10 月	障害児（者）地域療育等支援事業
1999 年 4 月	自立訓練ホーム・レスパイトケア開始
2000 年 3 月	名古屋キリスト教社会館第二次将来計画 21 世紀福祉プラン策定
2000 年 9 月	自立ホーム のどか、うらら開始（無認可）
2001 年 4 月	「南・緑生活支援センター のどか」開設
2002 年 4 月	グループホーム「のどか」「うらら」認可
2002 年 7 月	障害児者地域生活支援センターみなみ開設

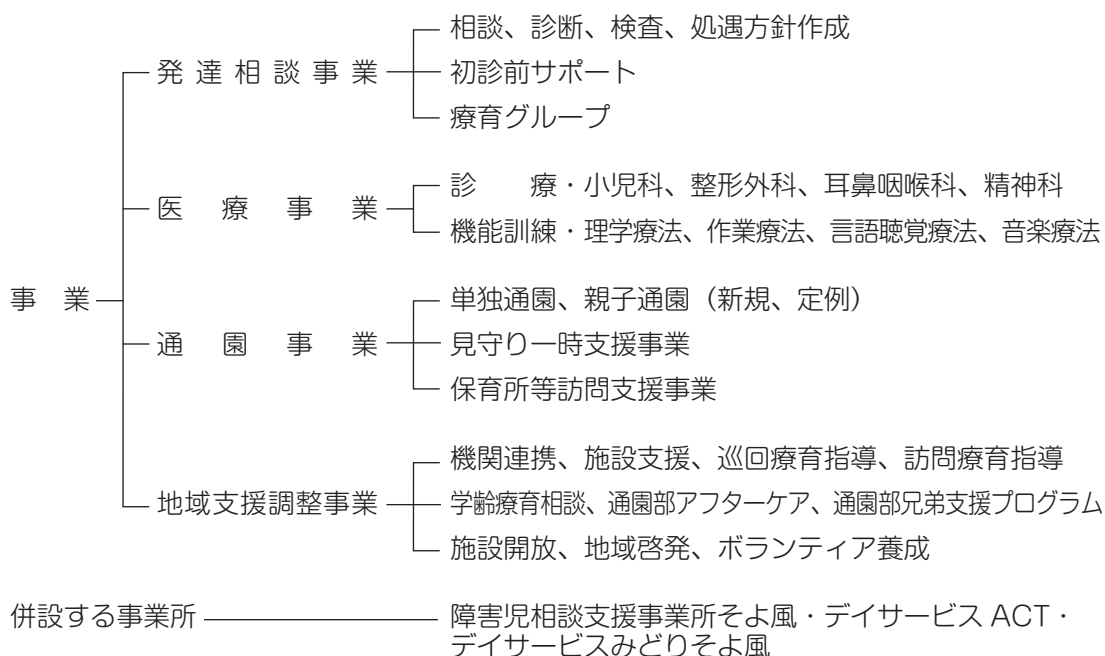
2003 年 1 月	「生活支援センターびぼっと」開設
2003 年 4 月	支援費制度開始
	知的障害児通園施設 名古屋市立あつた学園 名古屋市より運営移管
	「発達センターあつた」開設
	知的障害児通園施設 名古屋市立ちよだ学園 名古屋市より運営移管
	「発達センターちよだ」開設
	デイサービスちよだ開設
	デイサービス ACT 開設 グループホーム「天歩」開設
2003 年 6 月	子どもセンターみどり竣工 デイサービスみどり開設
2004 年 6 月	デイサービスあつた開設
2006 年 4 月	障害者自立支援法施行
2006 年 6 月	ケアホーム「ホームしゃかいかん」開設
2006 年 10 月	障害者自立支援法本格施行に伴う児童福祉法の改定により通園施設が契約制度に移行
2006 年 11 月	名古屋キリスト教社会館第三次将来計画構想策定 - 21 世紀福祉プラン改訂版 -
2007 年 4 月	事業体系移行にともない生活介護事業開設 定員 20 名
2009 年 8 月	社会館「生活支援センターびぼっと」竣工
2010 年 7 月	「名古屋キリスト教社会館 東館」開設
2010 年 8 月	東館 2 階 療育グループ専用室確保
2010 年 9 月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館 創立 50 周年
2011 年 3 月	ケアホーム「いっぽ」開設
2012 年 10 月	相談支援事業所びぼっと開設
2012 年 12 月	みどり菜の花保育園竣工
2013 年 3 月	子どもセンターとくしげ竣工
2013 年 5 月	児童発達支援事業所 みどりそよ風 開設
2013 年 7 月	障害児相談支援事業所 そよ風 開設
	障害児相談支援事業所 あつた 開設
	障害児相談支援事業所 ちよだ 開設
2013 年 11 月	名古屋キリスト教社会館第四次将来計画構想策定
2014 年 4 月	「社会館障害者基幹相談支援センター」（コンソーシアム）開設
2014 年 6 月	「東部地域療育センターぽけっと」竣工
2016 年 4 月	多世代交流西館竣工。南部地域療育センターそよ風 通園部 定員 50 名に変更
2019 年 4 月	生活支援センターびぼっと西館竣工
2019 年 7 月	東部地域療育センターぽけっと 初診前サポートモデル事業開始
2020 年 3 月	名古屋キリスト教社会館第五次将来計画構想策定
2020 年 7 月	東部地域療育センターぽけっと 地域支援調整事業開始
2021 年 7 月	南部地域療育センターそよ風 初診前サポート事業開始
2021 年 8 月	医療的ケア児支援スーパーバイザーモデル事業開始
2023 年 7 月	南部医療療育センターそよ風 地域支援調整事業開始

5 建物の概要

敷地面積	敷地 3,066.35㎡（南区三吉町 6-17）
構 造	本館：鉄筋コンクリート造 3 階建 東館：鉄骨造 3 階建のうち 2 階・3 階一部 西館：鉄骨造 3 階建のうち 2 階一部
規 模	建築面積 延べ床面積 本館：1,751㎡ 東館：236.47㎡ 西館：163.89㎡
併設施設	・菜の花保育園（定員 135 人） ・デイサービス友（定員 20 名） ・名南ユースセンター ACT ・デイサービス ACT（定員 10 名） ・小規模多機能つどい（定員 25 名） ・子育て支援センターなのはな

6 事業の概要

(1) 事業の種類



(2) 担当地域

南区・緑区・港区の一部

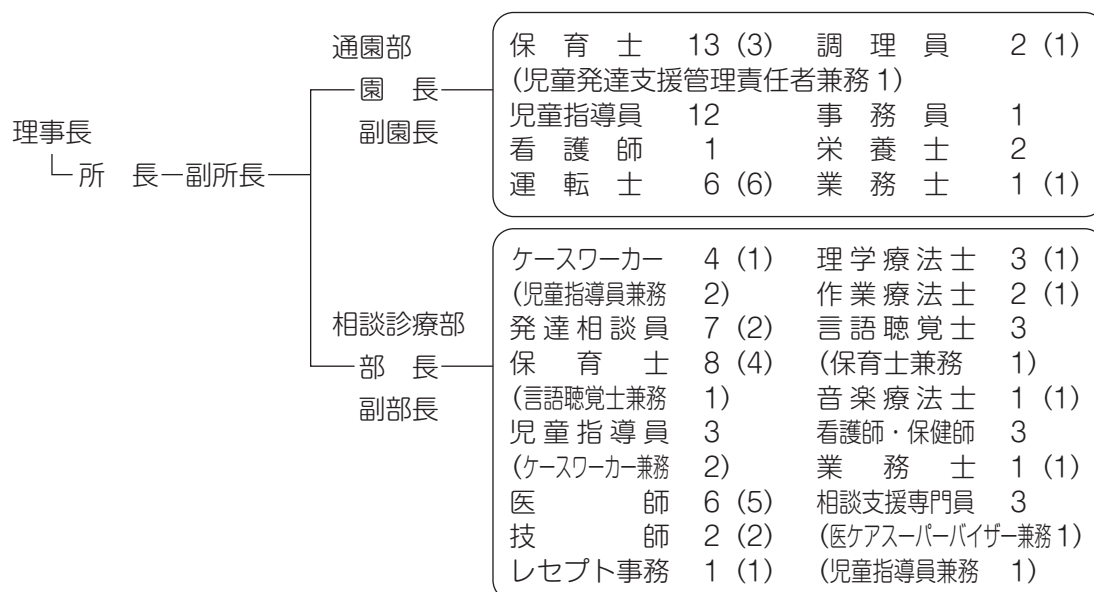
〈参考〉

人口（2024 年 4 月 1 日）

	名古屋市	南 区	緑 区	2 区 合 計
人 口（人）	2,291,891	132,230 (6%)	248,782 (11%)	381,012 (16.6%)
0～5 歳	99,944	5,046 (5%)	12,731 (13%)	17,777 (17.8%)
0～17 歳	326,655	16,752 (5%)	43,526 (13%)	60,278 (18.5%)

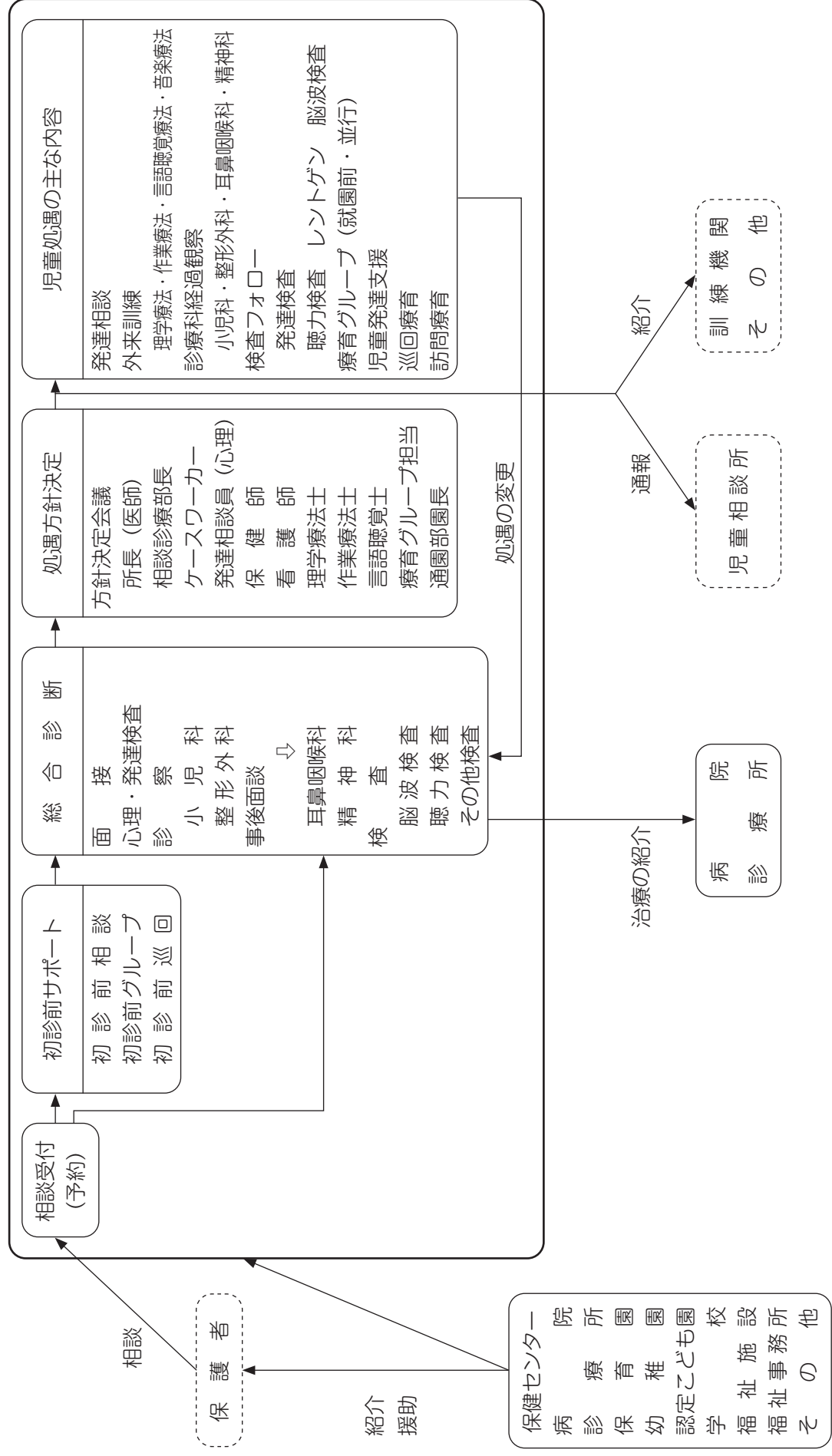


(3) 組織・職員体制〔() 内、嘱託職員・パート職員再掲〕(2024 年 4 月 1 日現在)



(4) 相談の流れ

南部地域療育センターそよ風



第 2 発達相談事業

1 新規相談

今年度の新規相談希望者は 430 人で昨年度から大きな変動はない。緑区南区の出生数は 2016 年をピークに減少し続けているが、新規相談希望者は大きく減少しておらず、受診する子どもの割合は増えている。相談内容は発達障害に関連するものが多い。

当センターは「気になる段階からの支援」を主眼とし、「必要なこどもが」「必要な支援を」「必要な時期に」受けられるような初診やその後のフォローの在り方を構築してきた。

処遇方針作成状況において、就園前グループの方針は減少が続いており、2017 年度では 238 人であったのに対し 2024 年度は 135 人と、2017 年度の 6 割にとどまっている。このことから分かるように、両親ともに就労している家庭が増え、就園している児童とその保護者に対しての支援を具体的に構築していくことが求められている。2025 年度の事業として就園している 1, 2 歳児の児童と保護者向けの親子教室を実施する方向とする等、具体的なフォローの在り方を検討した。

- ・ 新規相談は 1 週間に通常初診を 4 ケース、1, 2 歳児初診は 7 ～ 8 ケース、合診は 1 ケースを実施した。
- ・ 年間の初診受診者総数は 430 人で、内訳は通常初診 186 人（43%）、1, 2 歳児初診 218 人（51%）、合診 26 人（6%）である。昨年度全初診者数 439 人に対しての通常初診 179 人（40%）、1, 2 歳児初診 231 人（53%）、合診 29 人（7%）とほぼ変化がない。
- ・ 障害種別は言語発達障害等（64.9%）、自閉症（14.8%）と昨年度に引き続き言語発達障害等の割合が大きい。言葉遅れを主訴に初診に繋がっているケースが多いのだが、自閉症等の特性があり今後注意してみていく必要があることは前年度同様である。
- ・ 合診は昨年の初診数より減少。受診児の内訳は未歩行の主訴が 65%を占め、医療的ケアのある児は 26 人中 4 人であった。

表 2－1 区別状況

(2024 年度、単位：人)

区	就 学 前 児 童							計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳		
南 区	3	11	39	42	23	9	4	131	30.5
緑 区	7	33	83	76	47	40	10	296	68.8
港 区					1	1	1	3	0.7
計	10	44	122	118	71	50	15	430	100

注) 年齢は初診時満年齢である。

表 2－2 名古屋市中心療育センター・地域療育センターの相談歴

(2024 年度、単位：人)

	緑 区	南 区	計
名古屋市中心療育センター	4	3	7
東部地域療育センター	2		2
北部地域療育センター			0
西部地域療育センター			0
計	6	3	9

表 2－3 主訴（症状）

(2024 年度、単位：人)

主 訴	就 学 前 児 童							計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳		
言語発達	1	23	90	51	20	17	4	206	47.9
知的発達			5	4	4	2		15	3.5
運動発達	1	2	1					4	0.9
全体発達	5	15	4	4	3	1		32	7.4
性格行動	3	3	22	59	44	30	11	172	40.0
聴 覚		1						1	0.2
計	10	44	122	118	71	50	15	430	100

注) 年齢は初診時満年齢である。

表 2－4 センターへの紹介経路

(2024 年度、単位：人)

紹介機関	就 学 前 児 童							計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳		
保 健 セ ン タ ー	2	31	85	69	26	10	4	227	58.8
医 療 機 関	5	6	11	4	2	2		30	7.0
保 育 園			15	29	26	17	8	95	22.1
幼 稚 園				4	2	3		9	2.1
認 定 こ ど も 園	2		1	5	4	4		16	3.7
地域療育センター			2	4	1	1	1	9	2.1
児 童 福 祉 施 設		1				1		2	0.5
知 人		1	1	1			1	4	0.9
家 族		2	3		5	5		15	3.5
そ の 他	1	3	4	2	5	7	1	23	5.3
計	10	44	122	118	71	50	15	430	100

注) (1) 年齢は初診時満年齢である。

(2) その他はインターネットなどである。

表 2－5 障害種別状況

(2024 年度、単位：人)

障 害 種 別	就 学 前 児 童							計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳		
知 的 障 害	1	1	3	2	1	3	2	13	3.0
自 閉 症	2	4	11	28	19	7	3	74	17.2
自閉症＋知的障害				2	6	1	2	11	2.6
肢 体 不 自 由			1			1		2	0.5
肢体不自由＋知的障害		1		1				2	0.5
言 語 発 達 障 害 等	3	24	105	79	37	30	6	284	66.0
適 正					1	4	1	6	1.4
聴 覚				1				1	0.2
性 格 行 動					2	1		3	0.7
そ の 他	4	14	2	5	5	3	1	34	7.9
計	10	44	122	118	71	50	15	430	100

注) (1) 年齢は初診時満年齢である。

(2) 言語発達障害には境界域、ADHD、吃音を含む。

表 2－6 診断区分別状況

(2024 年度、単位：人)

診断区分		就 学 前 児 童							計	%
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳		
知的障害	ダウン症候群	1		1					2	0.5
	その他の症候群		1	1					2	0.5
	知的障害		1	2	2	1	4	2	12	2.8
てんかん							1		1	0.2
自閉症		2	4	11	31	25	8	5	86	20.0
言語発達遅滞		1	23	91	35	7	5	1	163	37.9
構音障害					8	5	3		16	3.7
吃音					2		4	2	8	1.9
難聴					1				1	0.2
脳性麻痺+知的障害			1						1	0.2
中枢性協調障害					3	3	2		8	1.9
運動発達遅滞		3	11		1				15	3.5
筋ジストロフィー					1				1	0.2
その他神経疾患				1			1		2	0.5
境界域					1	3	6	1	11	2.6
多動症		2	1	14	32	22	9	2	82	19.1
正常域						1	4	1	6	1.4
その他		1	2	1	1	4	3	1	13	3.0
計		10	44	122	118	71	50	15	430	100

注) (1) 年齢は満年齢である。

(2) 診断区分は複数の診断名がある場合、主たる 1 つの診断名が属する区分で計上した。

表 2－7 処遇方針作成状況

(2024 年度、単位：件)

処遇方針	就 学 前 児 童							計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	
経過観察		2		1		13	9	25
発達相談	7	42	122	115	75	37	6	404
P T 訓練	3	12		1				16
O T 訓練				7	14	10	1	32
S T 訓練				1	7	20	2	30
摂食機能訓練	1	2						3
就園前グループ	4	34	84	13				135
並行グループ				8	18	9	1	36
通園施設方向		6	11	6				23
他機関紹介			1					1
その他	2	1		1				4
計	17	99	218	153	114	89	19	709

注) (1) 年齢は初診時の満年齢である。

(2) 件数は 2024 年度新規相談者に対し、その年度内に処遇方針を作成した数である。

(3) 処遇方針作成数は実際に処遇を開始した数とは異なる。

(4) 「経過観察」は「発達相談必要時」と同義である。

(5) 「その他」は、「家庭訪問」「薬物療法」である。

2024 年度 南区・緑区・港区通園希望者

区	就 学 前 児 童						計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	
南 区		2	2	1			5
緑 区		16	9	1	1		27
計		18	11	2	1		32

注) 年齢は 2024 年度の学年齢である。

進路先内訳 南部地域療育センターそよ風 31 人 (うち 8 人は週 2 親子クラスである)
 発達センターあつた 1 人
 待機児 0 人

表 2 - 8 支援方針追加変更状況

(2024 年度、単位：件)

支 援 方 針	就 学 前 児 童						計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	
発 達 相 談							
P T 訓 練				1			1
O T 訓 練			4	21	34	12	71
S T 訓 練				1	31	25	57
M T 訓 練		1		2	2	2	7
摂食機能訓練		1		2	1		4
就園前グループ	2	7	36			1	46
並行グループ				4	9	7	20
通園施設方向		3	6		1		10
そ の 他					1	1	2
計	2	12	46	31	79	48	218

注) (1) 年齢は学年齢である。

(2) 件数は該当年度に処遇方針を作成した数である。

(3) 処遇方針作成数は実際に処遇を開始した数とは異なる。

(4) 「その他」は「薬物療法」である。

2 発達検査および発達相談

(1) 新規相談児童の発達検査

表 2－9 初診の状況（発達相談）

（2024 年度、単位：人）

区	就 学 前 児 童						計
	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	
南 区	15	34	40	26	9	4	128
緑 区	26	71	82	50	38	10	277
港 区				1	1	1	3
計	41	105	122	77	48	15	408

注）初診時の検査および初回受付診察後（213）、合診後の初回相談を含む。
年齢は初診時の満年齢である。

(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談

・継続時のフォロー状況（延べ人数）は、前年度 1007 人、今年度 1020 人

表 2－10 継続相談児童のフォロー状況

（2024 年度、単位：件）

区	就 学 前 児 童						小学生	計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳		
南 区		7	33	93	67	86		286
緑 区	3	23	119	162	193	220	1	721
港 区			3	4	4	2		13
合 計	3	30	155	259	264	308	1	1020

注）年齢は継続相談時の学年齢である。

・来所回数（2024 年度、単位：人）

回数	人 数	割 合
1 回	647	78.1%
2 回	170	20.5%
3 回	11	1.3%
4 回	0	0%
計	1020	100%

実人数 828 人

(3) 検査結果

表 2－11 年齢別検査結果

(2024 年度、単位：人)

検査数値	就 学 前 児 童						小学生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳			
20 以下				2	1	3		6	0.7
21 ～ 35		1	3	5	2	14		25	3.0
36 ～ 50		1	11	18	20	18		68	8.2
51 ～ 75	1	9	44	58	54	46	1	213	25.7
76 以上	2	14	65	121	134	180		516	62.3
計	3	25	123	204	211	261	1	828	100

注) 年齢は学年齢である。

表 2－12 障害別検査結果

(2024 年度、単位：人)

障害種別	1 度	2 度	3 度	4 度	非該当	計
	20 以下	21 ～ 35	36 ～ 50	51 ～ 75	76 以上	
知的障害		6	20	92	4	122
自閉症		17	44	102	182	345
言語発達障害等			2	17	278	297
肢体不自由	1		2	1	5	9
重心	5	2				7
聴覚					1	1
視覚						0
適正					1	1
その他（保健）				1	38	39
未決定					7	7
計	6	25	68	213	516	828

3 初診前サポート事業

2021 年 7 月から開始した初診前サポート事業も 4 年目となり、保健センターや保育園などに周知され、スムーズに案内されている。また 2023 年 7 月には地域支援・調整部門も立ち上がり、安定的な体制のもとで運営できるようになった。

今年度の実施総数は 324 人で、1, 2 歳児が微減、年少・年中児が微増であった。1, 2 歳児の在園児は前年度と比べて 10 人増であり、年々、割合としては増加している。それにより、療育グループの方針は大きく減っている（前年度比 20 件減）。

初診前サポートを経過したうち、1, 2 歳児、年少中児ともに全員が初診の方針となったが、初診前サポート後に初診予約をキャンセルしたのが 9 件（1, 2 歳児が 4 件、年少中児が 5 件）あった。理由は、他院受診が 2 件、心配、不安がなくなったためが 7 件である。また、初診前サポートもしくは初診の予約をしたが、一度も来所せずにキャンセルとなったのが 3 件あり、不安がなくなったためが 2 件、他院受診が 1 件であった。

電話受付から初診前サポートに来所するまでの平均は、1, 2 歳児は 18.8 日、年少中児以上は 32.3 日、総平均は 24.1 日であり、1 か月内には初めての相談に来所されている。

表 2－13 インテーク実施状況（年齢別）（2024 年度、単位：人）

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
就 園		25	85	74	49	4	237
未 就 園	4	39	44				87
合 計	4	64	129	74	49	4	324

表 2－14 インテーク実施状況（月別）（2024 年度、単位：人）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
就 園 児	20	22	23	23	14	24	16	21	18	24	15	17	237
未就園児	11	10	12	9	6	6	5	3	10	8	1	6	87
計	31	32	35	32	20	30	21	24	28	32	16	23	324

表 2 - 15 区別状況

1.2 歳児

(2024 年度、単位：人)

区	0 歳児	1 歳児	2 歳児	計
南 区	1	23	39	63
緑 区	3	40	90	133
港 区		1		1
計	4	64	129	197

3 歳以上

(2024 年度、単位：人)

区	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
南 区	25	8	2	35
緑 区	49	40	2	91
港 区		1		1
計	74	49	4	127

表 2 - 16 処遇方針 (2024 年度、単位：件)

処遇	合計
療育グループ	77
他 機 関 紹 介	0
1, 2 歳児初診	197
一 般 初 診	127
終 了	0
初 サ ポ 巡 回	13
計	414

表 2 - 17 初診前巡回

(2024 年度、単位：件)

	保育園	幼稚園	認定こども園	計
2 歳児	1			1
3 歳児	4	1	5	10
4 歳児	1			1
計	6	1	5	12

4 療育グループ

(1) 就園前グループ

- ・0・1・2・3歳児の発達に不安のある就園前の子どもを対象に親子教室を実施した。そよ風にて、ぐんぐん教室9グループ、緑区の子どもセンターみどりにてぴよんぴよん教室4グループ、子どもセンターとくしげにてにこにこ教室4グループを実施した。
- ・1歳児グループは、昨年度に引き続き毎週開催とした。
- ・保育園在園児は引き続き基本隔週参加とした。1歳児は5人、2歳児は4人の登録があった。
- ・育休復帰に伴う就園や幼稚園・認定こども園の満3歳入園など進路の選択肢が広がっており、1歳児のうちから就園相談をする必要が高まっている。

表2－18 過去10年の就園前グループ実施人数

(単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計	保育園並行
2015年度	15 (2)	88 (9)	134 (25)	7 (4)	244 (40)	19
2016年度	11	84 (2)	127 (27)	5 (2)	227 (30)	17
2017年度	8	71 (5)	118 (29)	6 (2)	203 (36)	19
2018年度	6	69 (2)	124 (17)	5 (5)	203 (23)	17
2019年度	5	49 (2)	108 (12)	5	167 (14)	14
2020年度	4	74 (2)	119 (12)	5 (2)	202 (16)	21
2021年度	12	88 (5)	122 (23)	3	225 (28)	17
2022年度	16 (3)	67 (7)	108 (35)	5 (3)	196 (48)	25
2023年度	13 (4)	77 (9)	96 (27)	2 (1)	188 (41)	15
2024年度	11 (0)	54 (4)	92 (27)	1 (1)	158 (32)	9 (3)

注) () は途中終了児 (再掲)

表 2 - 19 就園前グループの実施状況

(2024 年度、単位：人)

		グループ名	実施状況	年齢					職員体制
				0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	合計	
べぐん教室	そよ風 東館	か ば	月曜日			16 (6)		16 (6)	児童指導員 1 発達相談員 1 ST1 パート保育士 1
		あ ひ る	月曜日隔週		8			8	保育士 1 児童指導員 1 発達相談員 1
		く ま	火曜日		10 (1)			10 (1)	児童指導員 1 ST1 パート保育士 1
		ま め	火曜日	3	4			7	児童指導員 1 保育士 1 発達相談員 1
		ら い お ん	水曜日			17 (6)		17 (6)	保育士 2 発達相談員 1 パート保育士 1
		り す	水曜日		8 (1)			8 (1)	保育士 1 CW1 パート保育士 1
		ひよこうさぎ	金曜日	4	3 (1)	2		9 (1)	保育士 1 児童指導員 1 CW1 PT1 看護師 1
		プ レ	2月 25 日	1				1	保育士 1 児童指導員 1
		プ レ ぐ ん	3月 17 日		3			3	保育士 1 児童指導員 1
びよんびよん教室	子どもセンターみどり	ちゅうりっぷ	火曜日		8			8	保育士 2 パート保育士 1
		た ん ぽ ぼ	木曜日			17 (7)		17 (7)	保育士 1 発達相談員 2 パート保育士 1
		す み れ	金曜日			15 (6)		15 (6)	保育士 2 児童指導員 1 ST1
		プレびよん	3月 18 日	3				3	保育士 3
にっこにっこ教室	子どもセンターとくしげ	あ し か	月曜日			12 (1)	1 (1)	13 (2)	保育士 2 児童指導員 1 発達相談員 1
		ぺ ん ぎ ん	水曜日			13 (1)		13 (1)	児童指導員 1 発達相談員 1 パート保育士 2
		ら っ こ	木曜日		9 (1)			9 (1)	保育士 1 児童指導員 1 パート保育士 1
		プ レ に こ	3月 19 日		1			1	保育士 2
		計		11	54 (4)	92 (27)	1 (1)	158 (32)	

注) (1) () は途中終了児

(2) 年度途中の移行は最終グループで計上

(3) プレ、プレぐん、プレびよん、プレにこグループは新規児のみ計上

① 療育目標

- ・子どもの要求を大切に保護者と一緒に楽しくあそぶ経験を積む。
- ・生活基盤、生活リズムの確立を通し、健康的な身体づくりをすすめる。
- ・食事・排泄・着替えなどの基本的生活習慣の自立にむけて家庭と共に考えあう。
- ・姿勢、運動面への働きかけと、見る・聴く・触れるなど感覚への働きかけを大切にする。

② 日 課

- ・子どもの生活リズムに合わせた日課づくりを行った。
- ・とりくみ内容は子どもの要求・発達・親子の様子を考慮する。
- ・2歳児グループでは、2月からおにぎりを家庭から持参してもらった。グループからは汁物を提供し、就園を見据えて、みんなで軽食を食べる経験を大切にしたい。
- ・1歳児グループは昨年度同様、自由あそび後におやつを摂る日課で実施した。

2歳児グループの日課

9:45	登室・健康チェック 自由あそび・連絡ノート受け渡し
10:15	おはようのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび・体操
10:30	排泄
10:40	とりくみ
11:00	おやつ
11:15	さようならのつどい 絵本・さようならの歌

1歳児グループの日課

9:30	登室・健康チェック 自由あそび・連絡ノート受け渡し
10:00	おやつ
10:15	排泄
10:25	おはようのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび・体操
10:40	とりくみ
11:00	さようならのつどい 絵本・さようならの歌

ひよこ・うさぎグループの日課

9:45	登室・健康チェック 自由あそび・連絡ノート受け渡し
10:20	おはようのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび
10:35	とりくみ おむつ替え
11:00	おやつ
11:30	さようならのつどい 絵本・さようならの歌

まめグループの日課

9:45	登室・健康チェック 自由あそび・連絡ノート受け渡し
10:15	おやつ
10:30	排泄
10:40	おはようのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび
10:55	とりくみ
11:15	さようならのつどい 絵本・さようならの歌

年間行事

4月		10月	親子遠足
5月	こどもの日	11月	絵本のおはなし
6月	就園のおはなし	12月	クリスマス会
7月	七夕	1月	お正月
8月		2月	節分
9月		3月	おわりのつどい

※年3回ほど交流会などを実施。

表 2－20 就園前グループ障害種別状況

(2024 年度、単位：人)

障 害 種 別	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	計
知 的 障 害	3	8	9		20
肢 体 不 自 由			2		2
肢体不自由＋知的障害					0
自 閉 症	1	4	7		12
自閉症＋知的障害		1	8		9
言 語 発 達 障 害	4	37	65	1	107
重 心					0
保 健	3	4	1		8
計	11	54	92	1	158

表 2－21 就園前グループ区別状況

(2024 年度、単位：人)

区	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	計
南 区	1	16	18		35
緑 区	10	38	73	1	122
港 区			1		1
計	11	54	92	1	158

表 2－22 就園前グループ進路先状況

(2024 年度、単位：人)

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	計
通 園 施 設		16	7		23
公 立 保 育 園	2	4	7		13
民 間 保 育 園	5	8	4		17
公 立 幼 稚 園			9		9
民 間 幼 稚 園			41	1	42
認 定 こ ど も 園		2	17		19
グ ル ー プ 継 続	4	16	1		21
転 居 終 了		1	1		2
経 過 良 好 終 了		5	1		6
そ の 他		2	4		6
計	11	54	92	1	158

表 2 - 23 就園前グループ月別在籍人数

(2024 年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月 初 の 数	0	56	61	66	75	80	89	93	103	109	113	117
月 末 の 数	57	61	66	75	80	89	93	103	109	113	117	0
新入児の数	57	8	7	11	13	12	9	13	9	7	8	6
終了児の数	1	3	2	2	8	3	5	2	3	4	1	126

注) (1) 4月の月初の数は開始した人数を示しているので、0としている。

(2) 3月の月末の数は全員終了としたため、0としている。

表 2 - 24 就園前グループ月別参加人数 (延べ数)

(2024 年度、単位：件)

	グループ名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ぐんぐん教室	か ば	21	23	27	26	20	27	15	20	28	14	19	9	249
	あ ひ る									4	9	12	4	29
	く ま	7	8	11	13	6	17	22	19	17	29	21	8	178
	ま め	1	0	2	2	3	7	7	10	10	10	9	6	67
	ら い お ん	20	28	27	30	17	22	35	25	22	26	25	8	285
	り す						2	13	24	22	25	19	6	111
	ひよこうさぎ	7	4	7	5	2	8	8	14	12	17	13	5	102
	プ レ											4		4
	プ レ ぐ ん												3	3
ぴよぴよん教室	ちゅうりっぷ	11	7	13	20	6	28	36	28	22	28	24	8	231
	た ん ぼ ぼ	22	38	34	35	22	19	26	23	18	21	25	8	291
	す み れ	16	15	19	23	22	35	35	15	18	21	22	6	247
	プレぴよん												4	4
にこにこ教室	あ し か	15	17	22	20	20	32	22	18	33	20	24	9	252
	ぺ ん ぎ ん	13	12	14	25	11	17	27	31	24	34	34	12	254
	ら っ こ				3	5	12	17	16	17	27	24	8	129
	プ レ に こ												2	2
計		133	152	176	202	134	226	263	243	247	281	275	106	2438

③ グループ健康会議

次年度、通園部に通う子どもの健康状況のとらえを共有することを目的に、看護師・保育士・児童指導員により、健康会議を実施した。

(2) 就園前グループアフターのつどい

2023 年度就園前グループを終了した保護者を対象に交流会を実施した。延べ 34 名が参加した。グループ終了後の親子の状況を捉え、園生活の状況の共有、保護者同士の交流をおこなった。

グループ名		日程	場所	参加人数
ぐんぐん教室	かば	2024/6/25	そよ風	4 人
	らいおん	2024/6/17	そよ風	5 人
ぴよんぴよん教室	たんぼぼ	2024/6/25	そよ風	6 人
	すみれ	2024/6/26	子どもセンターみどり	9 人
にこにこ教室	あしか	2024/6/27	子どもセンターとくしげ	5 人
	ぺんぎん	2024/5/23	子どもセンターとくしげ	5 人

(3) 並行グループ

- ・並行グループ（さんさん教室）は2週に1度、10回1クールのグループを前半期3グループ、後半期4グループで実施した。
- ・グループ編成は年齢、発達状況、家庭状況を考慮した。

表2-25 並行グループの実施状況

(2024年度、単位：人)

	実施状況	対象児の障害	年齢				職員体制
			3歳児	4歳児	5歳児	計	
そよ風東館	へりこぶたー (第1・3火曜)	ASD(疑) MR・会話		5	1	6	保育士2 児童指導員1 発達相談員1 ST1
	よっと (第1・3木曜)	ASD・MR DCD ADHD 境界域多動症疑 言語発達遅滞 会話		4	5	9	保育士2 発達相談員2 ST1
子どもセンター ひこぎ	ひこぎ (第2・4木曜)	正常域・会話 広汎性疑 ASD疑境界域 MR		2	3	5	保育士2 児童指導員1 発達相談員1
そよ風東館	ひこぎ (第1・3・5火曜)	会話・ADHD疑 ASD疑・MR DCD		3	5	8	保育士1 児童指導員1 発達相談員1 ST1
	ばす (第2・4火曜)	会話・ASD危 ADHD疑・MR	6			6	保育士1 児童指導員1 発達相談員1 ST1
	きしゃ (第1・3木曜)	広汎性・会話 ASD・MR	3	3		6	保育士2 児童指導員1 発達相談員1 ST1
子どもセンター ひこぎ	しんかんせん (第2・4木曜)	ASD疑 ADHD疑 会話・広汎性疑 正常域		2	4	6	保育士2 児童指導員1 発達相談員1
			9	19	18	46	

注) 対象児の障害の「会話」は「会話及び言語の特異的発達障害」を省略した表記である。

① 療育目標

- ・とりくみを通して達成感を味わい、自信につなげていく。
- ・身体や手先の使い方を知っていく。
- ・友だちとあそぶ楽しさを知っていく。

② 日 課

さんさん教室の日課

14:30	登室・健康チェック 自由あそび（描画・パズルなど） 連絡ノート受け渡し
15:00	こんにちわのつどい スケジュール確認 呼名 とりくみ① おやつ とりくみ② おわりのつどい シール貼り
16:00	さようなら

表 2－26 並行グループ障害種別状況

(2024 年度、単位：人)

障 害 種 別	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
知 的 障 害	1	1	3	5
自 閉 症＋知的 障 害		3	2	5
自 閉 症	4	7	7	18
言 語 発 達 障 害 等	4	8	4	16
そ の 他 保 健				0
適 正			2	2
未 決 定				
計	9	19	18	46

注) 前半期、後半期ともに参加した児は、ダブルカウントとしている。

表 2－27 並行グループ区別状況

(2024 年度、単位：人)

区 別	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
南 区	5	5	5	15
緑 区	4	13	13	30
港 区		1		1
計	9	19	18	46

注) 前半期、後半期ともに参加した児は、ダブルカウントとしている。

表 2 - 28 並行グループ在籍児の所属園

(2024 年度、単位：人)

区 分	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
公 立 保 育 園	1	3	3	7
民 間 保 育 園	3	5	5	13
公 立 幼 稚 園	1		2	3
民 間 幼 稚 園	2	2	4	8
認 定 子 ども 園	2	9	4	15
そ の 他				0
計	9	19	18	46

注) 前半期、後半期ともに参加した児は、ダブルカウントとしている。

表 2 - 29 並行グループ月別在籍人数

(2024 年度、単位：人)

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
月 初 の 数	0	5	19	19	20	20	7	23	25	26	26	26
月 末 の 数	5	19	19	20	20	7	23	25	26	26	26	0
新入児の数	5	14	0	1	0	0	16	2	1	0	0	0
終 了 児	0	0	0	0	0	13	0	0	0	1	0	26

表 2 - 30 並行グループ月別参加人数 (延べ数)

(2024 年度、単位：件)

	グループ名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
前半	ひ こ う き	5	9	9	10	8	5							46
	へりこぶたー		11	11	17	6	9							54
	よ っ と		16	12	8	7	15							58
後半	き し ゃ							6	6	6	6	8		32
	しんかんせん							10	11	5	8	12	5	51
	ば す							10	8	10	9	4	4	45
	ひ こ う き							11	11	14	16	16		68
	計	5	36	32	35	21	29	37	36	35	39	40	9	354

表 2 - 31 並行グループ終了時進路状況

(2024 年度、単位：人)

区 分		3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	計
小学校	通 常 学 級			7	7
	特別支援学級・学校			2	2
グ ル ー プ 継 続		2	6	6	14
通 園 施 設					0
転 居					0
終 了		7	13		20
不 明				3	3
計		9	19	18	46

注) (1) 前半期、後半期ともに参加した児は、ダブルカウントとしている。

(2) 「不明」はグループ終了時点で通常学級・特別支援学級のどちらに進学するか確定していない児童。

③ グループ見学会

- ・各グループで見学会を行い、前半期と後半期合わせて延べ、22 ケ園が参加した。内訳は保育園 11 ケ園、幼稚園 5 ケ園、認定こども園 6 ケ園であった。
- ・グループのとりくみ終了後保護者と参加した園の先生、グループスタッフで懇談を設けた。

表 2 - 32 並行グループ見学会参加状況

		グループ名	日時	参加人数
そよ風東館	前半期 (4～9月)	へりこぶたー	2024 年 7 月 2 日	1 ケ園 2 名
			2024 年 7 月 16 日	2 ケ園 2 名
			2024 年 7 月 30 日	1 ケ園 2 名
		よっと	2024 年 6 月 20 日	1 ケ園 2 名
			2024 年 7 月 18 日	1 ケ園 1 名
子どもセンター とくしげ		ひこうき	2024 年 6 月 27 日	1 ケ園 1 名
			2024 年 7 月 25 日	1 ケ園 1 名
そよ風東館	後半期 (10～3月)	ひこうき	2024 年 12 月 3 日	1 ケ園 1 名
			2024 年 12 月 17 日	2 ケ園 3 名
			2025 年 1 月 7 日	2 ケ園 3 名
		ばす	2024 年 12 月 10 日	1 ケ園 1 名
			2024 年 12 月 24 日	1 ケ園 2 名
			2025 年 1 月 14 日	1 ケ園 1 名
		きしゃ	2024 年 12 月 19 日	1 ケ園 1 名
			2025 年 1 月 16 日	2 ケ園 3 名
子どもセンター とくしげ		しんかんせん	2024 年 12 月 12 日	2 ケ園 2 名
			2025 年 1 月 9 日	1 ケ園 1 名

注) 複数回来所の園あり。表内は延べ園数。

5 保護者向け学習会

(1) 年長児保護者向け学習会

表 2 - 33

月日	内容	講師	参加人数	対象
2024.6.7	就学会学習会	教育センター 山口先生	参加 122 人	年長児保護者

・会場は、2023 年度と同様、緑文化小劇場で行った

第3 医療事業

1 診 療

小児科（常勤1名、非常勤2名）、整形外科（非常勤1名、週2回）、耳鼻咽喉科（非常勤1名、週1回）、精神科（非常勤1名、月1回）による診療を行っている。看護師は外来常勤2名と通園部に常勤1名である。保健師は常勤2名で、ケースワーカー業務を行っている。

診療の中で発達相談事業の初診は週4日、再診は週4日、通園児（そよ風・あつた）と保育園児の健診等を行っている。

検査としては、聴力検査週1回、X線検査月2回、聴性脳幹反応は必要時に実施している。

(1) 小児科

① 新規患者について

- ・初診前サポート事業の開始により、初診の方法は以下の通りである。
 - a. 一般初診：ケースワーカーによる問診、発達相談員による発達検査を経て、小児科医師の診察。3, 4歳児は、初診の前に初診前サポートあり。（初診前サポート事業参照）
 - b. 1, 2歳児初診：初診前サポートでの集団遊びと面談の後、小児科医師の診察。
 - c. 合診：小児科医、整形外科医の診察
- ・新規患者数；初診患者総数は430人で、前年度とほぼ変化がない。
- ・障害種別状況：自閉症は74人（17.2%）とやや増加、言語発達遅滞等は284人（66.0%）とほぼ同じであった。

②小児科発達外来再診

- ・延べ人数は741人、実人数は591人で減少している。1人当たりの受診回数は1.25と大きな変化はなかった。年齢別でも大きな変化はなかった。

③長期投薬数

- ・小児期の神経発達症に伴う入眠困難等の児への内服治療（メラトベル）の処方が増えているため、2023年度14人から26人と増加した。

④小児科定期診察

- ・通園児
 - 延べ人数28人（実人数16人）と昨年度に比べ大きな変化はなかった。
- ・ひよこさぎグループ
 - グループ所属の児に実施した。

⑤健康会議

- ・診療部と通園部・療育グループで、子どもの健康の理解を進め、諸行事（宿泊療育など）参加時の注意点、単独保育への移行や通園バス乗車の問題点などについて話し合い、安全に療育ができるようにしている。

表 3－1 小児科発達外来再診

(2024 年度、単位：件)

診 断 区 分		就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	他	計	%
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
知的障害	ダウン症候群	3 (2)	5 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	4 (3)	1 (1)				16 (10)	2.2 (1.7)
	その他の症候群	1 (1)			4 (3)	2 (2)	1 (1)					8 (7)	1.1 (1.2)
	小 頭 症											0 (0)	0.0 (0.0)
	水 頭 症				2 (1)	1 (1)	1 (1)					4 (3)	0.5 (0.5)
	て ん か ん					1 (1)						1 (1)	0.1 (0.2)
	知 的 障 害	6 (2)	29 (17)	25 (21)	24 (20)	28 (22)	25 (22)					137 (104)	18.5 (17.6)
自 閉 症			6 (4)	57 (43)	51 (37)	71 (64)	150 (120)	6 (6)				341 (274)	46.0 (46.4)
言語発達遅滞		1 (1)	12 (12)	36 (32)	32 (23)	21 (19)	21 (17)					123 (104)	16.6 (17.6)
構 音 障 害				2 (2)	1 (1)	2 (2)	10 (8)					15 (13)	2.0 (2.2)
吃 音					1 (1)							1 (1)	0.1 (0.2)
知的障害＋脳性麻痺												0 (0)	0.0 (0.0)
脳性麻痺＋知的障害		1 (1)				2 (1)						3 (2)	0.4 (0.3)
脳 性 麻 痺				1 (1)		1 (1)						2 (2)	0.3 (0.3)
急性脳症後遺症				1 (1)			2 (2)					3 (3)	0.4 (0.5)
中枢性協調障害					1 (1)	5 (4)	4 (3)	2 (2)				12 (10)	1.6 (1.7)
運動発達遅滞		8 (6)	10 (6)	6 (5)		2 (2)	1 (1)					27 (20)	3.6 (3.4)
多 動 症												0 (0)	0.0 (0.0)
正 常 域							1 (1)					1 (1)	0.1 (0.2)
境 界 域			1 (1)	3 (3)	7 (5)	6 (6)	16 (10)					33 (25)	4.5 (4.2)
難 聴												0 (0)	0.0 (0.0)
整形外科疾患												0 (0)	0.0 (0.0)
筋ジストロフィー			3 (1)									3 (1)	0.4 (0.2)
そ の 他						1 (1)	9 (8)	1 (1)				11 (10)	1.5 (1.7)
計		20 (13)	66 (42)	132 (109)	124 (93)	144 (127)	245 (197)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	741 (591)	100 (100)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

表 3 - 2 小児科一般外来

(2024 年度、単位：件)

診 断 区 分		就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	他	計	%
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
知的障害	ダウン症候群				2 (1)							2 (1)	2.4 (2.9)
	その他の症候群				2 (2)							2 (2)	2.4 (5.7)
	知 的 障 害				7 (5)	6 (2)	1 (1)					14 (8)	16.9 (22.9)
	水 頭 症						1 (1)					1 (1)	1.2 (2.9)
自 閉 症					19 (5)	21 (6)	9 (6)					49 (17)	59.0 (48.6)
言語発達遅滞					9 (3)	5 (2)						14 (5)	16.9 (14.3)
知的障害+脳性麻痺												0 (0)	0.0 (0.0)
脳性麻痺+知的障害												0 (0)	0.0 (0.0)
脳 炎 後 遺 症											1 (1)	1 (1)	1.2 (2.9)
脳 性 麻 痺												0 (0)	0.0 (0.0)
計		0 (0)	0 (0)	0 (0)	39 (16)	32 (10)	11 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	83 (35)	100 (100)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

表 3 - 3 長期投薬

(2024 年度、単位：人)

学 齢 区 分 診 断 名	0 ～ 2 歳	3 ～ 5 歳	低学年	高学年	中学生	その他	計
知的障害 + 自閉症		10					10
自 閉 症		4					4
知 的 障 害	1	3					3
会話及び言語の特異的発達障害		6					6
そ の 他		2					3
計	1	25	0	0	0	0	26

注) 管理数の内訳は、継続 8 名、新規 18 名。

次年度への継続児は 16 名。精神科へ移行が 1 名。終了は 9 名 (すべて転院)。

表 3－4 小児科定期診察（通園児）

（2024 年度、単位：件）

診断区分		就 学 前 児 童						計	%
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳		
知的障害	ダ ウ ン 症 候 群				4 (1)		1 (1)	5 (2)	17.9 (12.5)
	そ の 他 の 症 候 群							0 (0)	0.0 (0.0)
	水 頭 症						2 (1)	2 (1)	7.1 (6.3)
	知 的 障 害			1 (1)	7 (4)	1 (1)	4 (2)	13 (8)	46.4 (50.0)
そ の 他 の 症 候 群					2 (1)	2 (1)		4 (2)	14.3 (12.5)
脳性麻痺＋知的障害								0 (0)	0.0 (0.0)
知的障害＋脳性麻痺								0 (0)	0.0 (0.0)
自 閉 症					3 (2)		1 (1)	4 (3)	14.3 (18.8)
急 性 脳 症 後 遺 症								0 (0)	0.0 (0.0)
合 計		0 (0)	0 (0)	1 (1)	14 (7)	1 (1)	8 (5)	28 (16)	100 100

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

(3) 障害種別では「重心」となる児が4名である。

(4) 診断区分は自閉症や知的障害となっている児の中に、その他症候群・てんかんなどの疾患を重複している児を含む。

表 3－5 小児科定期診察（療育グループ等）

（2024 年度、単位：件）

グループ名	0 歳	1 歳	2 歳	計
ひよこさぎ G	10 (4)	8 (2)	1 (1)	19 (7)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

(3) 定期診察は、小児科再診と兼ねて実施した。

(2) 整形外科

- ・新規受診者数は 38 名。
- ・整形外科来全体の実人数は 152 名。うち、通園児は 23 名であった。
- ・今年度、終了数 17 名（歩行安定、高校卒業児、転院）、PT オーダーは 16 名（合診から 14 名、経過フォロー児から 2 名）であった。

表 3－6 整形外科診断区分別状況（新規）

（2024 年度、単位：人）

区 分	就 学 前 児 童							小 学 生		中学生	他	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年				
知 的 障 害												0	0.0
ダウン症候群	1		1									2	5.3
脳 性 麻 痺		1										1	2.6
脳性運動障害		1										1	2.6
運動発達遅滞	3	13	1									17	44.7
神経・筋疾患				1								1	2.6
骨・関節疾患			1	1								2	5.3
後天性要因による運動障害												0	0.0
正 常		1					1					2	5.3
その他先天性障害	1	1										2	5.3
そ の 他	1	1	7	1								10	26.3
計	6	18	10	3	0	0	1	0	0	0	0	38	100

注) (1) 年齢は、満年齢である。

(2) その他には、外反扁平足・歩容異常・てんかん・自閉症（疑）等を含む。

(3) その他先天性障害は、染色体異常・先天性心疾患である。

(4) 新規患者で装具作成のケースが 2 件あった。

表 3－7 整形外科診断区分別状況（装具外来継続）

（2024 年度、単位：件）

区 分	就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知 的 障 害			2	4	2						8	3.7
ダウン症候群		2	5	1	1	2	11	2	2	7	33	15.4
脳 性 麻 痺			5		3	6	14	15	8	6	57	26.6
脳性運動障害				7	5	2	8	3			25	11.7
運動発達遅滞	1		2				3				6	2.8
神 経・ 筋 疾 患											0	0.0
骨・ 関 節 疾 患											0	0.0
後天性要因による運動障害										2	2	0.9
二 分 脊 椎											0	0.0
その他の先天性障害				3		6				1	10	4.7
そ の 他		4	20	9	22	4	10		2		71	34.1
計	1	6	34	24	33	20	46	20	12	16	212	100

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) その他は、尖足・歩容異常・外反扁平足・内転足・水頭症等である。

(3) 運動発達遅滞には、ウエスト症候群等のてんかん発作の児も含む。

表 3－8 整形外科診断区分別状況（定期診察継続）

（2024 年度、単位：件）

区 分	就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	他	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
知 的 障 害		1	4	5	1	1	1				13	7.0
ダウ ン 症 候 群	2	5	4		1	2	4	2	2	4	26	14.1
脳 性 麻 痺		1	4	2	3	2	4	9	6	1	32	17.3
脳 性 運 動 障 害				1		1	3	1	1	1	8	4.3
運 動 発 達 遅 滞	13	27	6		1						47	25.4
神 経 ・ 筋 疾 患		2									2	1.1
骨 ・ 関 節 疾 患		1					1				2	1.1
後天性要因による運動障害				2		1				3	6	3.2
二 分 脊 椎											0	0.0
その他の先天性障害	1		1			2	1				5	2.7
そ の 他	1	3	9	12	9	1	5	4			44	23.8
計	17	40	28	22	15	10	19	16	9	9	185	100

注）（1）年齢は、学年齢である。

（2）その他は、尖足・歩容異常・外反扁平足・内転足・水頭症・自閉症（疑）等である。

(3) 耳鼻咽喉科

- ・当センターの耳鼻咽喉科診療目的は、疾患の早期発見・早期治療、聴覚の管理である。
- ・今年度当科を受診した患児の総数は182名であった。終了147名、そのうち新規での終了は108名であった。
- ・新規における言語発達遅滞の占める割合は88%で横ばい、構音障害は5.5%でやや減少した。
- ・その他は、吃音・舌小帯短縮・口唇口蓋裂・外耳道異物除去・上気道炎・急性鼻炎・アレルギー性鼻炎である。
- ・正しい聴覚検査の結果を得る為、耳垢除去も必要である。耳垢除去は新規では69名、継続では54件行った。
- ・通園児の受診数は、10名であった。
- ・自覚的聴力検査を実施するも良好な検査結果が得られず、且つ、ティンパノメトリー、OAE共に実施できなかった児に対して、ABRまたは3歳児健診前後の再検を行うようにしている。
- ・中等度難聴と診断された児が1名あり（1歳児）、あいち小児保健医療総合センターに紹介した。この児は新生児スクリーニングで所見があった。

表3－9 耳鼻咽喉科診断区分別状況（新規）

（2024年度、単位：人）

主診断名	就 学 前 児 童							小 学 生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
難 聴 の 疑 い		1			1							2	1.6
難 聴												0	0.0
滲 出 性 中 耳 炎												0	0.0
耳 垢 塞 栓												0	0.0
言 語 発 達 遅 滞		19	66	25	1	1						112	88.2
粘 膜 下 口 蓋 裂				1								1	0.8
構 音 障 害				3	2	2						7	5.5
正 常				1								1	0.8
そ の 他				2		1		1				4	3.1
計	0	20	66	32	4	4	0	1	0	0	0	127	100

注）年齢は、満年齢である。

表 3－10 耳鼻咽喉科診断区分別状況（継続）

（2024 年度、単位：件）

主診断名	就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	高校生	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
難 聴 の 疑 い						1					1	1.3
難 聴		1					1			1	3	3.9
滲 出 性 中 耳 炎											0	0.0
耳 垢 塞 栓			3	10		4	1	3		3	24	31.2
言 語 発 達 遅 滞		4	19	5	2	5					35	45.5
鼻 咽 腔 疾 患											0	0.0
構 音 障 害											0	0.0
そ の 他						4	1	1	8		14	18.2
計	0	5	22	15	2	14	3	4	8	4	77	100
実 人 数	0	4	17	9	2	12	3	3	3	2	55	

注）年齢は、学年齢である。

表 3－11 聴力検査

（2024 年度、単位：件）

区 分		就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	高校生	計
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年		
自覚的 聴力検査	B O A			1								1
	C O R		19	81	34	6	1	1	1		1	144
	Peep-Show				7	1	4	5			1	18
	標準純音聴力検査						1		1			2
	プレイオーディオ											0
合 計		0	19	82	41	7	6	6	2	0	0	165

注）年齢は満年齢である。

区 分		就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	高校生	計
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年		
他覚的 聴力検査	ティンパトリー		15	69	30	5	6	2	1		2	130
	DPOAE		4	31	19	4	5	4				67

注）年齢は満年齢である。

(4) 精神科

- ・新規が2名、継続8名であった。養育者のアセスメント及び支援、児と養育者への精神療法、投薬治療が中心である。
- ・4名が転院終了、6名が次年度へ継続。

表3－12 精神科診断区分状況（新規）

（2024年度、単位：人）

区 分	就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
自閉症(平均知能)											0
自閉症(精神遅滞)						2					2
A D H D											0
精 神 遅 滞											0
そ の 他											0
計	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2

注）年齢は、学年齢である。

表3－13 精神科診断区分別状況（外来継続）

（2024年度、単位：人）

区 分	就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
自閉症(平均知能)						4	2				6
自閉症(精神遅滞)					4	12		3			19
A D H D					8						8
精 神 遅 滞							6				6
そ の 他											0
計	0	0	0	0	12	16	8	3	0	0	39

注）年齢は、学年齢である。

(5) 検査

表 3－14 脳波、ABR、心電図

(2024 年度、単位：件)

検 査 名	就 学 前 児 童						小 学 生		他	計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年		
A B R		1	3							4
脳 波										0
心 電 図										0

注) 年齢は、学年齢である。

表 3－15 エックス線写真部位

(2024 年度、単位：件)

部 位	就 学 前 児 童							小 学 生		中学生	他	計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年			
足 部							1	1	1			3
脊 柱								1	2	2	1	6
股 関 節		1	6	6	3	1	2	5	3	1	1	29
下 肢												0
膝		1										1
手 根 骨												0
肘												0
頸 椎						1						1
アデノイド												0
そ の 他												0
計	0	2	6	6	3	2	3	7	6	3	2	40
実 人 数	0	1	6	6	3	2	3	6	5	2	1	35

注) 年齢は、満年齢である。

(6) 診断書等発行

表 3－16 診断書等発行状況

(2024 年度、単位：件)

診 断 書 等	小 児 科	整形外科	耳 鼻 科	精 神 科
特別児童扶養手当診断書	44	3		
障害児福祉手当診断書		2		
身体障害者手帳診断書		5		
精神保健福祉手帳診断書				
補 装 具 意 見 書		31		
補 装 具 交 付 証 明 書		49		
障 害 証 明 書				
初 診 日 に 関 する 証 明 書	2			
私立幼稚園特別支援教育費も関わる診断書	20			
そ の 他 診 断 書	28	1		
紹 介 状 ・ 回 答 書	357	6	3	4
お む つ 意 見 書				
児 童 福 祉 法 意 見 書	138			
計	575	97	3	4

(7) 看護師の業務

①診療や健康診査介助、その報告に関する業務など。

②通園部での健康管理：健康観察と医療的ケア。その指導、援助。

2024 年度は医療的ケアを必要とする児は 6 名であった。相談診療部の看護師も、通園看護師と交代で昼に巡回を行った。必要のある児には定期診察、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科の受診を勧めた。

③訪問療育指導

④0, 1 歳児グループ療育

2 訓 練

当センターでは、訓練部門として、個別訓練、生活支援事業（摂食・嚥下機能訓練、通園・療育グループでの摂食指導・療育参加、学校連携）、学習会、巡回療育指導、訪問療育指導、子育て講座、関連診療科との協力等の業務を行った。

(1) 理学療法 (PT)

- ・ 個別訓練は医師の指導監督の下、理学療法士常勤3名（内1名8月～産育休）が施設基準の障害児（者）リハビリテーションに基づいて行った。
- ・ 児童の全身状態や障害状況、運動状況に合わせ、運動療法や呼吸理学療法を行っている。
- ・ 初回評価は、理学療法士複数名で行った。
- ・ 児童の家庭や保育園での生活を把握しながら、療育的な視点から生活面における指導・援助を行い、訓練・治療内容が児童・家族の日常生活の改善や向上につながるよう努めている。
- ・ 訪問看護や訪問リハビリを受けている児童について、関連機関からの見学があり、当センターでのリハビリ状況や訪問看護・訪問リハの状況の情報共有を行った。
- ・ 座位が不安定な児童に対し、椅子・姿勢保持具等の作製を行った。
- ・ 新規児童は17名（2023年度18名）であった。診断名別に見ると運動発達遅滞が全体の88.2%で最も多かった。また、ダウン症は0名であった。（表3－17）
- ・ 2022年度まで新規児童は30名前後であったが、2023年度以降は20名以下である。
- ・ 訓練対象児は、10年前と比較し50名程度減少している。診断名別にみると脳性麻痺が2018年（55名）をピークに2024年度は25名まで減少した。一方で、運動発達遅滞は年々増加している。
- ・ 2024年度末の時点で医療ケアを必要とする児童は全体で18名であった。このうち、複数のケアが必要な児童は8名であった。内訳は、気管切開7名、酸素吸入3名、胃ろう8名、経管栄養5名、導尿1名であった。
- ・ 訓練対象児85名のうち、通園児はそよ風14名あつた0名であった。
- ・ ひよこさぎグループを担当した。
- ・ 巡回療育指導を、1歳児1名に対し、他職種とともに計2回行った。
- ・ 保育所等訪問を、3歳児1名に対し、他職種とともに計1回行った。
- ・ 訪問療育指導を他職種とともに行った。
- ・ 子育て支援センターで子育て講座を行った。

表 3－17 PT 診断別状況（新規）

（2024 年度、単位：人）

主 診 断 名	就 学 前 児 童								小 学 生		中 学 生	高 校 生	計	%
	0 歳 6 ヶ月 未 満	0 歳 6 ヶ月 以 上	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低 学 年	高 学 年				
脳 性 麻 痺											1 (0)		1 (0)	5.9
その他の運動障害 (症候群含む)													0 (0)	0.0
後天性要因による 運 動 障 害													0 (0)	0.0
ダウン症候群													0 (0)	0.0
その他の染色体異常													0 (0)	0.0
運動発達遅滞		2 (0)	12 (1)			1 (0)							15 (1)	88.2
知的障害に伴う 運動発達遅滞													0 (0)	0.0
神経・筋疾患						1 (0)							1 (0)	5.9
二 分 脊 椎													0 (0)	0.0
発 達 障 害													0 (0)	0.0
骨・関節疾患													0 (0)	0.0
そ の 他													0 (0)	0.0
計	0 (0)	2 (0)	12 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	17 (1)	100

注) (1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) 診断名は 2025 年 3 月時点での診断名である。

(3) 再度、処遇を受けた児童も含む。

(4) () 内は、訓練開始時の移動能力が移動不可～寝返りの段階にある児童数である。

表3－18 PT診断別状況（新規・継続）

（2024年度、単位：人）

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳 2024年度 生まれ	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺				2 (0)	2 (0)	3 (1)	1 (0)	3 (0)	4 (2)	9 (3)	1 (1)	25 (7)	29.4
その他の運動障害 (症候群含む)				2 (0)	3 (1)		2 (0)	5 (1)	2 (1)			14 (3)	16.5
後天性要因による 運動障害								2 (1)				2 (1)	2.4
ダウン症候群			2 (0)	1 (0)				2 (0)		1 (0)		6 (0)	7.1
その他の染色体異常					1 (0)	2 (1)	1 (1)	1 (0)	1 (1)		1 (1)	7 (4)	8.2
運動発達遅滞		6 (1)	13 (1)	5 (0)	2 (0)	1 (0)						27 (2)	31.8
知的障害に伴う 運動発達遅滞					1 (0)							1 (0)	1.2
神経・筋疾患			1 (1)		1 (0)							2 (1)	2.4
二分脊椎												0 (0)	0.0
発達障害								1 (0)				1 (0)	1.2
骨・関節疾患												0 (0)	0.0
その他												0 (0)	0.0
計	0 (0)	6 (1)	16 (2)	10 (0)	10 (1)	6 (2)	4 (1)	14 (2)	7 (4)	10 (3)	2 (2)	85 (18)	100

注) (1) 2024年度内に管理をした全ての児童の状況を示す（終了児を含む）。

(2) 年齢は、学年齢である。「0歳、2024年度生まれ」は、2024年4月2日以降生まれの児童である。

(3) 診断名は、2025年3月末時点（終了児はその時点）の診断名である。

(4) () 内は、2025年3月末（終了児はその時点）の状態で移動不可～寝返りの段階にある児童である。

表3－19 PT終了等の状況

（2024年度、単位：人）

区分	目標達成	評価のみ	転居・転院	高校卒業	中断	就学	その他	計
人数	16	0	2	0	0	0	0	18

表 3－20 PT 月別状況

(2024 年度、単位：人)

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	平均
実人数	58	58	66	64	57	61	65	62	63	61	58	64		61.4
延人数	112	114	108	134	93	107	126	115	110	116	107	119	1,361	113.4
月管理数	75	76	78	75	73	74	74	75	75	75	73	75		

注) (1) 実施児 1 人あたりの訓練頻度 (延人数÷実人数) は、月平均 1.8 回であった。

(2) 担当児全員の訓練頻度 (延人数÷月管理数) は月平均 1.5 回であった。

(3) 実際の訓練回数は、週 1 回～月 1 回程度である。

(2) 作業療法 (OT)

- ・ 個別訓練は医師の指導監督の下、作業療法士 3 名 (常勤 2 名、非常勤 1 名) が施設基準の障害児 (者) リハビリテーションに基づいて行った。
- ・ 脳性麻痺児やその他の疾患による肢体不自由児に対しては機能訓練を実施し、発達障害等の児に対しては評価後、主に感覚統合理論に基づいて、治療・指導などを行った。
- ・ 初回評価は作業療法士 3 名で行った。行動観察の評価に加え目的に応じ日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査簡易版 (S-JMAP)、臨床観察、日本感覚インベントリー (JSI-R) を行った。
- ・ 処方は年間 103 名出された。
- ・ 新規児童は 87 名であった。その内整形からの処方は 1 名であった。
- ・ 待機期間を短縮するため 10 回クール制を継続した。最大 5 か月待ちの状態があり、平均すると 3 ヶ月待ちであった。3 月末時点で未開始の児童は 40 名であった。
- ・ 新規児童は、ASD が 26.8%、ADHD が 23.0%、DCD は 21.8%を占めた。年齢は、年長児 26 名 29.9%、年中児 47 名 54.0%、年少児 12 名 13.8%であった。
- ・ 年長児は優先的に開始できるように調整し、後半期で頻度を高め訓練回数を確保した。
- ・ 10 回クール内に目標達成終了したケースもいれば、クール延長して目標達成終了したケースもいた。
- ・ 訓練対象児 142 名のうち、通園児は 17 名であった (そよ風 12 名、あつた 5 名)。
- ・ 巡回療育指導を発達相談員とともに行った。
- ・ 子育て支援センターで講座を行った。

表 3－21 OT 診断別状況（新規）

（2024 年度、単位：人）

主 診 断 名		就 学 前 児 童						小 学 生		中 学 生	高 校 生	計	%
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年			
脳 性 麻 痺							1					1	1.1
後天性要因による運動障害												0	0.0
二 分 脊 椎												0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺												0	0.0
ダ ウ ン 症 候 群												0	0.0
その他の運動障害（症候群を含む）						1						1	1.1
知的 障害	不器用を伴う					3	5					8	9.2
	多動を伴う					2	2	1				5	5.7
境 界 域						2	3					5	5.7
A D H D					1	7	10	2				20	23.0
L D												0	0.0
A S D	知的障害を伴う				1	6	4	3				14	16.1
	知的障害を伴わない			1		2	5	1				9	10.3
協 調 運 動 障 害					1	9	9					19	21.8
そ の 他						4			1			5	5.7
計		0	0	1	3	36	39	7	1	0	0	87	100

注）（1）年齢は、訓練開始時の満年齢である。

（2）ASD+ 境界域は、ASD（知的障害を伴わない）に含む。

（3）再度、処遇を受けた児童を含む。

表3－22 OT診断別状況（新規＋継続）

（2024年度、単位：人）

主診断名		就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺						3	2	3	1	1	1	11	7.7
後天性要因による運動障害								1				1	0.7
二分脊椎												0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺												0	0.0
ダウン症候群				1								1	0.7
その他の運動障害（症候群を含む）					1	1	1		1			4	2.8
知的障害	不器用を伴う				1	6	5	1				13	9.2
	多動を伴う					4	1					5	3.5
境界域					2	1	5					8	5.6
A D H D					3	15	13					31	21.8
L D												0	0.0
A S D	知的障害を伴う				4	8	6					18	12.7
	知的障害を伴わない			1		8	10					19	13.4
協調運動障害					4	14	8					26	18.3
その他					1	3		1				5	3.5
計		0	0	2	16	63	51	6	2	1	1	142	100

注）（1）2024年度内に管理した全ての児童の状況を示す（終了児を含む）。

（2）年齢は、学年齢である。

（3）ASD+境界域は、ASD（知的障害を伴わない）を含む。

表3－23 OT終了等の状況

（2024年度、単位：人）

区分	目標達成	評価のみ	クール終了	転居・転院	就学	高校卒業	中断	その他	計
人数	33	0	0	3	20	0	4	0	60

表3－24 OT月別状況

（2024年度、単位：人）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	50	60	60	65	62	76	78	87	90	100	92	89		75.8
延人数	69	98	94	109	77	111	115	122	123	129	136	136	1,319	109.9
月管理数	63	70	75	78	83	88	96	105	112	113	113	110		

注）（1）実施児1人あたりの訓練頻度（延人数÷実人数）は、月平均1.5回であった。

（2）担当児全員の頻度（延人数÷月管理数）は、月平均1.3回であった。

(3) 言語聴覚療法 (ST)

- ・ 個別訓練は医師の指導監督の下、言語聴覚士 3 名が施設基準の障害児 (者) リハビリテーションに基づいて行った。
- ・ 対象は、主に言語・コミュニケーションに何らかの困難をもつ児童である。
- ・ 評価には、国リハ式< S-S 法>言語発達遅滞検査、質問 - 応答関係検査、新版構音検査、PVT-R (絵画語い発達検査)、LC スケール、ITPA (イリノイ式言語学習能力診断検査) 等を用いた。
- ・ 処方は年間 87 名 (2023 年度 116 名) 出された。
- ・ 新規児童は 98 名 (2023 年度 121 名) であった。児童総数は 143 名 (2023 年度 159 名) であった。
- ・ 新規児童は、年長児が 55 名 56.1%、年中児が 41 名 41.8% であった。
- ・ 新規診断別状況では ASD の児童が 42.9% であった。構音障害に分類した児童のうち、ASD をあわせもつ児童が 4 名、ADHD をあわせもつ児童が 1 名であった。
- ・ 訓練開始の待機状況は、年度開始時点で前年度からの待機が 26 名、3 月末時点で未開始の児童は 14 名であった。待ち期間は最大 2 か月であった。
- ・ 10 回クール制を継続した。児の状況に応じて訓練頻度や回数を調整した。
- ・ 訓練対象児 143 名のうち、通園児は 8 名であった (そよ風 5 名、あつた 3 名)。
- ・ 児の状況に合わせて言語・コミュニケーション指導を個別に行った他、10 月から年長女児 4 名を対象として月 1 回グループ訓練を行ない、コミュニケーションの相互性やルールに則した言動の獲得を目指した。
- ・ 言語聴覚士 3 名は、週 1 回耳鼻咽喉科の各種聴力検査 (BOA・COR・peep-show・プレイオージオ・純音聴力検査・ティンパノメトリ・DPOAE) を担当した。
- ・ 言語聴覚士 3 名は、就園前グループ (くま、かば、すみれ) と並行グループ (前半期: へりこぶた一、よっと、後半期: ばす、ひこうき、きしゃ) を担当した。
- ・ 巡回療育指導を発達相談員とともに行った。
- ・ 子育て支援センターで講座を行った。

表 3－25 ST 診断別状況（新規）

（2024 年度、単位：人）

主 診 断 名		就 学 前 児 童						小 学 生		中 学 生	高 校 生	計	%
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	低学年	高学年			
脳 性 麻 痺												0	0.0
知 的 障 害						1	4					5	5.1
境 界 域						1	4					5	5.1
A S D	知的障害を伴う					6	12					18	18.4
	知的障害を伴わない					5	14	5				24	24.5
L D												0	0.0
A D H D							3					3	3.1
言 語 発 達 遅 滞						3	11	3				17	17.3
ダ ウ ン 症 候 群							1					1	1.0
構 音 障 害						2	14	2				18	18.4
吃 音					1		3	1				5	5.1
難 聴												0	0.0
場 面 緘 黙							1					1	1.0
そ の 他								1				1	1.0
計		0	0	0	1	18	67	12	0	0	0	98	100

注）（1）年齢は、訓練開始時の満年齢である。

（2）ASD＋境界域は、ASD（知的障害を伴わない）に含む。（2名）

表 3 - 26 ST 診断別状況（新規 + 継続）

（2024 年度、単位：人）

主 診 断 名		就 学 前 児 童						小 学 生		中 学 生	高 校 生	計	%
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
脳 性 麻 痺												0	0.0
知 的 障 害						3	5					8	5.6
境 界 域						2	7					9	6.3
A S D	知的障害を伴う					14	12					26	18.2
	知的障害を伴わない				1	11	20					32	22.4
L D												0	0.0
A D H D						1	2					3	2.1
言 語 発 達 遅 滞						5	19					24	16.8
ダ ウ ン 症 候 群							1					1	0.7
構 音 障 害						9	18	1				28	19.6
吃 音					1	2	3					6	4.2
難 聴												0	0.0
場 面 緘 黙							3					3	2.1
そ の 他					1		1	1				3	2.1
計		0	0	0	3	47	91	2	0	0	0	143	100

注）（1）2024 年度内に管理した全ての児童の状況を示す（終了児を含む）。

（2）年齢は、学年齢である。

（3）ASD + 境界域は、ASD（知的障害を伴わない）に含む。（4 名）

（4）構音障害・吃音に分類した児童の内、11.8%は ASD、5.9%は ADHD の診断を受けた児童である。

表 3 - 27 ST 終了等の状況

（2024 年度、単位：人）

区 分	目 標 達 成	評 価 の み	ク ー ル 終 了	転 居 ・ 転 院	高 校 卒 業	中 断	就 学	そ の 他	計
人 数	34	11	6	4	0	3	44	0	102

表 3 - 28 ST 月別状況

（2024 年度、単位：人）

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	平均
実人数	54	68	69	72	69	76	85	81	77	76	77	71		72.9
延人数	90	119	111	116	92	105	124	124	104	117	118	96	1,316	109.7
月管理数	60	71	77	82	84	89	93	97	99	92	93	81		

注）（1）実施児 1 人あたりの訓練回数（延人数÷実人数）は、月平均 1.5 回であった。

（2）担当児全員の訓練頻度（延人数÷月管理数）は、月平均 1.3 回であった。

(4) 生活支援

① 摂食・嚥下機能訓練

- ・麻痺等の運動障害に起因する摂食・嚥下障害のある子どもや、運動発達の遅れ等に伴う食事機能の未熟さをもつ子ども、偏食によって離乳食が進まない子ども、およびその保護者を対象に、リハビリスタッフ7名（PT・OT・ST）と栄養士1名の計8名で評価・指導を行った。
- ・評価・指導は、④通園・療育グループでの給食、⑥食事相談会の場において行った。

④通園・療育グループでの給食

- ・通園においては、リハビリスタッフ9名（内1名は5月まで）が各クラスの給食に入り、評価・指導を行った。通園児57名中11名が摂食・嚥下機能訓練の対象であった。給食指導は週1回の頻度で行った。
- ・待機児童クラスはなかった。
- ・療育グループにおいては、ひよこさぎグループにリハビリスタッフが入り、全体の様子をみながら必要児にはポイント指導・助言を行った。さらに細かな評価・指導が必要な児童に対しては、食事相談会につないだ。
- ・10月に通園児の食事の様子について目標とアプローチを一覧にしてクラスと共有した。

表 3 - 29 給食指導対象児の年齢別状況

(2024 年度、単位：人)

区 分	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	計
通 園			2	5	2	2	11

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) スクリーニング的な評価を行った児童は含まない。

表 3 - 30 給食指導の月別状況

(2024 年度、単位：件)

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
通 園	18	11	20	15	11	18	27	22	25	25	19	23	234

注) (1) 個人への給食指導を基本とし、クラス全体に対する評価・指導も1件として数えた。

(2) 4・5月は、全体的評価を中心に実施した。

⑥食事相談会

- ・月2回、年間20回の食事相談会を設定した。各回の対象児童は3名までとした。
- ・1～4歳児の児童9名に対し、個別に評価・指導を行った。訓練回数は、年1～5回である。
- ・新規児童は7名であった（療育グループ又は通園に所属）。
- ・後半期は就園に向けての摂食指導が中心となった。
- ・食事相談会に通うことが難しい1名に対しては個別訓練の枠で、評価・指導を実施した。

表3－31 食事相談会実施児の診断別状況

(2024年度、単位：人)

区 分	就 学 前 児 童						学 齢	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳			
脳 性 麻 痺				1	1 (1)			2 (1)	22.2
後天性要因による運動障害								0	0.0
ダ ウ ン 症 候 群		1						1	11.1
その他の染色体異常				1				1	11.1
その他の運動障害				1				1	11.1
知的障害に伴う運動発達遅滞								0	0.0
発 達 障 害		1						1	11.1
運 動 発 達 遅 滞		1		1				2	22.2
神 経・筋 疾 患		1 (1)						1 (1)	11.1
そ の 他								0	0.0
計	0	4 (1)	0	4	1	0	0	9 (2)	100

注) (1) 年齢は学年齢である。

(2) () 内はその児童のうち、DQ 20 以下で未定額の児童数をあげた。

表3－32 食事相談会月別実施状況

(2024年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実 人 数		1	1	1	1	2	3	1	3	4	3	2	22
延 人 数		1	1	1	1	2	3	1	3	4	3	2	22

表 3 - 33 個別枠における食事相談会月別実施状況

(2024 年度、単位：人)

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
実 人 数		1											1
延 人 数		2											2

② 通園療育連携

- ・ PT 2 名・OT 2 名・ST 3 名がそれぞれ 1 クラスを担当した。月 1 回、通園療育に参加し、子どもの状況を捉え合うとともに、療育検討を行った。
- ・ PT・OT・ST 各職種が、月 1 回ずつ持ち回りで、通園部の子どもの評価や職員の関わり方について、各クラスからの相談内容に助言する形で連携を行った。
- ・ 通園を含めた新規職員向けに PT・OT・ST が研修を行った。
- ・ OT が保護者向け研修を行った。

③ 学校連携

- ・ 学校生活を支援する目的で港特別支援学校と連携をとった。
- ・ 学校との連携で得た情報は、個別訓練を実施する上でも貴重であった。
- ・ 連携は、④ケース会、⑥個別訓練見学において行った。

④ ケース会

- ・ PT・OT が学校へ訪問し、ケース検討に加え各学部の見学を実施した。
- ・ 6 月と 10 月の 2 回実施した。
- ・ 対象は、小学部 4 年生（1 名）、中学部 1 年生（2 名）2 年生（2 名）3 年生（1 名）の計 6 名であった。
- ・ 後半期については対象児が欠席であったためビデオ検討とした。

⑥ 個別訓練見学

- ・ 夏休みに担当教員の訓練見学を受け入れ、児童の生活を踏まえた課題を共有し、自立活動の内容や方法についての検討を行った。
- ・ PT13 件、OT 1 件、ST 1 件の訓練見学を実施した。

④ 個別訓練時の施設支援

- ・ 港特別支援学校以外の施設の職員の訓練見学を受け入れた。
- ・ 各施設の職員と児童の生活について情報共有を行った。
- ・ 見学者の所属施設は、児童発達支援事業所、幼稚園・保育園、相談支援事業所、養護学校、訪問看護ステーション、入所施設、保健センターであった。
- ・ 見学者の延べ人数は、PT21 名、OT18 名、ST8 名、食事相談会 6 名であった。

(5) 学習会

①保護者向け学習会

実施日	内 容	対 象	参加人数	担当職種
6月25日	ことばとコミュニケーションについて	くまグループ	5名	ST
11月27日	感覚について	通園 めだか、たんぽぽ、 ちょうちょ、つくしんぼ	16名	OT
12月6日	リフレッシュ体操 簡単ストレッチ	ひよこうさぎグループ	4名	PT
1月7日	おうちでできるあそび	まめグループ	4名	PT

②職員向け学習会：通園を含めた新規職員に PT、OT、ST が研修を行った。

(1/16、2/25、2/28)

(6) 音楽療法 (MT)

- ・ 個別音楽療法を、週 1 回 (木曜日)、音楽療法士が実施した。
- ・ 興味を広げることや、他者を意識し三項関係を築くことを目的に実施した。
- ・ 対象は、知的障害を伴う ASD が 58.8% で最も多かった。
- ・ 新規児童は 6 名であった。
- ・ 対象と目的により、保護者も一緒に参加するプログラムを行った。また、きょうだいケースは個人音楽療法から集団音楽療法に変更し実施した。
- ・ 2 月より通園 3 クラスの児童を対象に集団音楽療法を実施した。

表 3 - 34 MT 診断別状況

(2024 年度、単位 : 人)

主 診 断 名		就 学 前 児 童						小 学 生		中 学 生	そ の 他	計	%
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
A S D	知的障害を伴う			1	2	3	4					10	58.8
	知的障害を伴わない			1			1					2	11.8
脳 性 麻 痺												0	0.0
知 的 障 害												0	0.0
そ の 他				2		1	2					5	29.4
計		0	0	4	2	4	7	0	0	0	0	17	100

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) その他はダウン症等、運動障害をもつ児童である。

表 3 - 35 MT 月別状況

(2024 年度、単位 : 人)

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	平均
実人数	10	12	11	10	12	11	13	11	3	12	13	11		10.8
延人数	15	19	17	15	15	12	19	13	3	14	17	12	171	14.3

注) 実施児 1 人あたりの訓練頻度 (延人数 ÷ 実人数) は、月平均 1.3 回であった。

第4 通園事業

1 施設概要

(1) 定 員 57 名

(2) 対 象 児 童

0 歳から就学前の、障害・発達のおくれを発見された子ども、又はその疑いのある子どもを対象にする。

(3) クラス編成 原則として生活年齢を基準に編成する。

(4) 通園形態 親子通園及び単独通園の2形態とする。

(5) 親子通園の種類

① 新規親子通園

新入園児を対象として、4 月は週3 登園、5 月は週4 登園を行う
(入園前の集団経験、療育経験に応じて短縮あり)

② 定例親子通園

全園児を対象として、毎週水曜日に行う

(6) 通園バス

- ・通園のための送迎を車をワゴン車3 台とマイクロバス1 台運行する。
- ・自家用車がない等により登園が困難な親子に、親子登園期間中、及び水曜親子登園日に通園バスでの送迎を行う。(親子バス)

2 療育内容

(1) 子ども像

子ども像とは「こんな子どもに育ってほしい」という私たち保育者のねがいである。

障害をもっている、ひとりの人間として、障害をのりこえ、たくましく、ゆたかに成長発達してほしい。「かわいがられる障害者」ではなく「自立(律)した障害者」になってほしいというねがいをもち、以下の子ども像をたてた。

- ・いのちを守り、いのちをつよくする子ども
- ・ゆたかな要求をもち、意欲的に生活する子ども
- ・どきどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども
- ・人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども
- ・人とともに育ちあえる子ども

(2) 療育の視点

社会情勢を見つめて

- ・現代の子育ての状況や社会福祉の動向などから地域の社会の実態をとらえ、子どもの発達を保障できる療育づくりをすすめる。
- ・日本国憲法や子どもの権利条約に学び、子ども一人ひとりの人権を守り、平和の大切さを伝える療育実践をすすめる。

一人ひとりの発達を支援する

- ・一人ひとりの子どもの発達や障害、これまでの育ちをまるごととらえ、発達課題を明らかにしながら、どの子も集団の中でいきいきとあそぶことができる療育づくりをすすめる。
- ・一人ひとりが自分を大切にされる経験を通して、どんな命も尊く、かけがえのないものであることを療育を通して伝える。
- ・食を通じて(さまざまな形態を意味する)、健康な身体をつくる。また、食育の視点を大切に、日々の食事を家族と共に豊かにする。
- ・子どもたちが、身近な自然や文化に触れながら生活経験を広げることが大切にする。また保育者がさまざまなあそびの文化を学び、子どもがドキドキワクワクと心動かすあそびづくりを追求する。
- ・大人との安心できる関係のもと、もっとあそびたい、できてうれしいなど、子どもの要求を広げ、人と共感しあえる関係づくりをしていく。
- ・一人ひとりのよさや、いろんなことに挑戦する中で達成感を積み上げ、集団の中で認められ、自己肯定感が育てられる集団づくりをすすめる。

家族とともに

- ・子どもを真ん中にして、家族の思いや願いを共有しながら、家族が元気に子育てに向かえる支援をすすめる。
- ・日々の子育てを担う母親が、子どもの理解を深めながら基本的な子育てを学び、楽しく子育てできるように支援する。
- ・母親同士が思いを出し合い、子育てへの思いや悩みに共感し、互いに育ちあえる母親集団づくりをする。
- ・父親、きょうだいの交流を通して、仲間づくりをすすめる。

(3) 療育計画

① クラス編成・登園日

(2025 年年度)

クラス名	人数	年 齢	担任	登園日・登園時間
つばめ組 (進級児クラス)	9	5歳児 9	3	・進級児 月・火・木・金(単独通園) 10:00～15:00 水(親子通園) 10:00～13:00 ・新入児 4月…週3日親子通園 10:00～13:00 5月…週4日親子通園 10:00～13:00 6月…単独・週5日通園へ移行 (進級児と同様)
そら組 (進級児クラス)	6	5歳児 3 4歳児 3	3	
にじ組 (進級児クラス)	8	5歳児 4 4歳児 4	4	
ちょうちょ組 (進級児・新入児クラス)	7	4歳児 4 3歳児 3	3	
めだか組 (進級児・新入児クラス)	9	3歳児 9	3	
たんぽぽ組 (新入児クラス)	8	3歳児 8	3	
つくしんぼ組 (新入児クラス)	7	3歳児 2 2歳児 5	3	

・年度途中の退園3名(7月:入所1名、9月:転居1名、10月母国へ帰国1名)

② 日 課

時間	単 独 通 園 日	親 子 通 園 日
9:00	通園バス	
9:45	直接登園の子 登園	
10:00	通園バス到着 健康チェック、着替え 水分補給 おはようのつどい あそび・とりくみ	登園 健康チェック、着替え 水分補給 おはようのつどい あそび・とりくみ
11:00	給食準備 給食	給食準備 給食
12:00	歯みがき・たんれん・着替え 絵本の読み聞かせ	歯みがき・たんれん
13:00	午睡	さよならのつどい 降園
14:00		
15:00	着替え、水分補給 さよならのつどい 降園 通園バス 見守り一時支援(～17:30)	
16:00		
17:30	終了	

③ 親子登園日（水曜日）の内容

- 親子あそび クラス毎に実施。親子の触れ合いを大切に、身体を使うこと、製作、クッキングなど、楽しくあそび、親子での経験を広げる（2～3回／月）
- 親子プール クラス毎に園内の温水プールに入り、水に親しむ。（1回／3ヶ月）
- 母親研修 全体研修では、防災について学び、その後の親子避難訓練につなぐ。親の会企画として、18歳以降の生活（社会資源）について学んだ。
- 親の会 年間5回の役員会、2回の総会、6回の親の会定例会を実施する。社会館合同役員会への参加、そよ風夏まつり、法人社会館バザーに出店した。

④ クラスを越えた保育

- 年長保育…19名の年長児に、4月から1年間通して年長保育を行った。野菜の栽培や単独宿泊をとりくんだ。保護者は親子宿泊、サポートブック作成のとりくみを行った。

⑤ 給食の状況

形 態	人 員
普通食	39
完了～移行食	1
側方への咀嚼～歯茎たべ	5
舌つぶし～側方への保持	4
ペースト～マッシュ	2
経管栄養（鼻注・胃ろう・他）	4
アレルギー	4
禁忌食材への対応	0

<調理の工夫>

手づかみをする／すくう／さす／しっかり噛む…をするために

- ・一つ一つの食材の目標をはっきりさせることにより、手づかみ、すくう、さすをしやすくする。
- ・食材を大きめに切り、噛み切る、噛みちぎる、噛むなどをし、一口量のコントロールをしやすくする。
- ・移行食という考え方ではなく、乳児食として普通食との間を埋める調理法を取り入れる。

食べやすくするために

- ・ゼリー食（ソフト食）にする。
- ・トロミを使い飲み込みやすくする。（水分補給・餡の利用）
- ・子どもの状況に合わせ、固さや調理法、食材を変える。
- ・手づかみしやすい大きさや固さにする。
- ・刺しやすい固さ、すくいやすい大きさにする。
- ・水分、栄養を摂るために、体調に合わせ調理形態の変更及び、高栄養剤の注入等、臨機応変な対応をし、一定量の確保をする。

<食器の工夫>

- ・ ノンスリップマット、吸盤、食器の重さ、深さなど子どもが使いやすいものに変える。
- ・ スプーン、フォークのグリップや柄、角度を子どもが使いやすいものに変える。
- ・ コップの高さ、持ち手、ボトル、チューブ、ストローなど子どもに応じて水分補給のしやすいものに変える。
- ・ 『自分で』『目的をはっきりさせる』など、子どもが意欲的に向かいやすいように（取り皿／深さ／重さ／形など）工夫する。

<給食指導の状況>

子どもに対し

- ・ 通園の給食に栄養士・訓練士（PT2名、OT2名、ST1名）が入り、保育者と共に給食指導をし、それぞれの子どもの摂食嚥下、道具操作、姿勢（机・椅子）など状況を捉え合い、必要な関わりや方向性の検討をコロナ禍でできる対応をした。
- ・ 食に偏りのある子の捉え、日課、カリキュラムの検討を行い、給食の内容や関わり方、クッキングの中味を具体的に考え、実施した。
- ・ 季節や日々の生活の中で食材を見る、触れる・味わうなど『五感』に働きかけることを意識し、子どもたちにとっての経験、食への興味を広げる取り組みを考えてきた。何気ない日々の生活を豊かにし、食べ物への興味関心を広げる取り組みをクラスとともに考えてきた。

保護者に対し

- ・ おたより（月1回）、クラス研修、個別懇談、食事調査を必要に応じて行い、啓蒙した。
- ・ 研修や長時間保育を通し、水分、食事、食事内容を考えるきっかけにした。
- ・ 防災備蓄試食体験を通し、我が子、我が家の備蓄を考えるきっかけに繋がった。
- ・ 日々の生活を通し、「共食」の大切さや、「食文化」を意識し、経験を積み重ねてきた。
- ・ 子どもの気持ちがみえるようなエピソードや写真を添えたおたよりづくりをする中で、子どもたちの園での様子を伝えるものとしてきた。
- ・ クラスの状況に応じ、クッキングを計画的に取り組み、そのことを通して、家庭での生活作りや子どもとの関わりにつなげ、食べることへの興味関心が広がってきた姿を伝えてきた。
- ・ 家庭での悩み（食事づくりや関わりなど）から、簡単にできる工夫について啓蒙した。
- ・ 親子登園時に給食を食べてみる、子どもたちの姿から、各クラスより作り方が知りたい、気になるメニューなどリクエストが増えた。ひとつのメニューからいろいろアレンジできるような工夫やポイントを添えたレシピ集（副菜、おやつ）を2回発行した。

<給食委員会>

- ・ 月 1 回、各クラスの給食委員と栄養士、調理師で行い、各クラスの子どもの状況をとらえあい日々の療育につなげてきた。
- ・ 伝統行事や季節の行事、この地方の食文化について学び合い、給食委員から発信し、親子で経験する（家庭）内容づくりの提起をした。感想も多数集まり、行事を通し、食べる・楽しむきっかけづくりへと繋げた。
- ・ 各クラスの子どもたちの状況により、水分補給の内容、食事形態など、園生活の日課の整理を含め子どもたちにとってよりよい生活を考えるクラスケースを年に 2 回取り組んだ。療育として食べることをどう考え、実践していくか積を職員集団で積み上げてきた。
- ・ 年度末にクラスごとの人気メニュー、子どもたちの様子をおたよりにし、親向けのレシピ集（おやつ）の編集を行ってきた。

⑥ 年間行事

月	日	内 容	
4	6 (土)	入 園 式	そよ風入園のつどい。年長児が園児代表として出席。
	4 (木)	進 級 式 (はじまりのつどい)	そよ風進級の親子でつどい。新しいクラス集団を知り、そよ風の生活を期待する機会にする。
5	15 (水)	親 子 遠 足	親子で東山動物園 (名養連・名障連招待行事) へ出かける。
6	1 (土)	そ よ 風 か ぞ く フ ェ ス テ ィ バ ル	近くの小学校の体育館で、親子でふれあいあそびや身体を使った取り組み、また保護者やきょうだいのとりくみなど家族みんなで楽しみながら、家族交流の場とした。
7	2 (金)	長 時 間 保 育	2、3 歳児親子を対象に行う。15 時以降、親子であそんだり、夕食を食べたりする中で、保護者と共に、24 時間の生活リズムや家での過ごし方を一緒に考える機会にする。
	12 (金) ~ 13 (土)	年 中 親 子 宿 泊	10 組の年中児が親子でそよ風に宿泊する。24 時間の生活をとらえるとともに、各クラス親子あそび、一緒に夕食を食べる、保護者同士の交流会などとりくむ。
8	6 (火) 7 (水)	海 水 浴	2 日間に分散し (1 日目: つばめ、そら、にじ、2 日目: ちょうちょ、めだか、たんぼぼ、つくしんぼ)、親子で野間海水浴場にて海でのあそび経験を広げる。父親やきょうだいも参加し、海あそびやすいかわりを楽しむ。
	31 (土)	かぞくで楽しむ夏まつり (社会館夏まつり)	法人夏まつりが台風接近のため中止となり、急遽通園部として、時間を午前に変更して開催。親の会や診療職員もお店を出だし、家族そろって盆踊りなど夏の祭りを楽しむ。
9	25 (水)	療 育 参 観 日 (新 入 3 ク ラ ス)	前半期療育まとめの行事を、参観日に変更して行う。単独保育移行後の生活とあそびを丁寧に振り返り、子どもたちの普段の姿を通して半期の成長を保護者と確かめ合う機会としする。
10	9 (水)	療 育 参 観 日 (進 級 4 ク ラ ス)	前半期療育まとめの行事を、参観日に変更して行う。半日の生活を通して子どもたちの成長を伝える機会とし、主活動の時間は保護者は子どもたちの意欲的にあそぶ様子を参観した。
11	23 (土・祝)	社 会 館 バ ザ ー	親の会は日用品とフランクフルトの販売、おやじの会は焼きそばと飲み物を販売した。
	28 (木) ~ 29 (金)	年 長 単 独 宿 泊	5 歳児が単独でそよ風に宿泊する。午前は芋ほり、午後はお買い物やお風呂などクラスを超えた年長集団でとりくむ。
12	25 (水)	も ち つ き 防災訓練と避難体験	進級 4 クラスは親子でもちつき体験をする。正月の鏡餅を作り家庭に持ち帰る。 新入 3 クラスは親子で防災訓練後、災害時にそよ風で避難場所となる所で、防災食の試食をする。
1	8 (水)	も ち つ き 防災訓練と避難体験	新入 3 クラスは親子でもちつき体験をする。花もちを作り、家庭に持ち帰る。 進級 4 クラスは親子で防災訓練後、災害時にそよ風で避難場所となる所で、防災食の試食をする。
2	1 (土) 2 (日)	み ん な の 大 き く な っ た お 祝 い 会	1 年間の療育のまとめの行事。2 日間に分けて取り組む。(1 日目: めだか、たんぼぼ、つくしんぼ、2 日目: つばめ、そら、にじ、ちょうちょ) 各日、保護者が他クラスも参観する。。
3	20 (祝)	卒 園 式 (親の会お別れ会)	就学児 19 名の卒園を祝う。在園児を代表して年中親子が参加した。送り出しでは親の会が贈り物を準備し、お祝いを伝える。
	25 (火)	そ よ 風 の つ ど い	2024 年度療育の最終日。全親子が集い、前半は転園児への保育証書授与、後半は親子でふれあいあそびや、桜の紙ふらしやパラバルーンを楽しむ。

⑦ 相談・診療との関わり

- ・入園時健診（4月）、在園児健診（5月、10月）を実施した。また、外部歯科による歯科検診（6月）を実施した。
- ・重心児や発作があるなど丁寧な健康管理が必要な児を対象に、月1回～2ヶ月に1回の頻度で、登園前の定期診察を実施した。
- ・医療的ケアが常時必要な児の単独での療育を保障するために、クラス担任で健康状況を丁寧に捉え、看護師と情報を共有して単独移行をすすめた。
- ・年1回、通園の子どもたちの発達相談を実施し、その前後で心理士と情報交換を行った。
- ・給食指導に週3～4回訓練士が入り、道具操作や摂食指導を行った。
- ・概ね月1回、クラスに担当リハスタッフが療育に参加し、子どもの状況を捉え合うとともに、療育検討を行った。また質問用紙を使い、必要時に連携を立った。
- ・医師・保健師・看護師・通園職員で、月1回健康会議を実施した。

3 家族援助

親子療育	毎週水曜日（親子あそび、親子プール、園外保育、親の会、研修会）月に1回除外日あり 新入児親子療育（4～5月 新規入園児を対象） 親子行事（2021年度実施行事は前述） 誕生会（月1回：シャボン玉や和太鼓、影絵など季節を感じる取り組みや外部より招いてみる取り組みを行う）
クラス懇談会	前半期クラス懇談会（5月） ※新入児クラスは、保育説明会（5月） 後半期クラス懇談会（11月）
懇談等	個人懇談（各家庭年2回 5～6月、11月に実施） 家庭訪問（進級児は4月初め、新入児は4月後半）
全体研修	・防災について（よかねっと浅野さん） ・18歳以降の生活について（南区障害者基幹相談支援センター小川さん）
クラス研修	・就園懇談会 （職員、就園児保護者） ・就学懇談会 （担任、就学児保護者） ・サポートブック作成会 （担任） ・排泄について （担任） ・生活リズムについて （担任） ・着脱について （担任） ・食えることと感覚について （栄養士） ・感覚について （担任）

4 見守り一時支援

市内の各児童発達支援センターにて 15 時以降の療育を、希望者に対して実施している。そよ風通園部では、定員最大 10 名、最長 17 時 30 分まで受け入れを実施した。

月別利用実績

月	開所日	利用者人数	述べ利用者数	日平均
4 月	15	10	52	3.5
5 月	17	13	58	3.4
6 月	16	11	62	3.9
7 月	14	10	51	3.6
8 月	11	12	45	4.0
9 月	14	9	51	3.6
10 月	18	11	57	3.2
11 月	17	11	55	3.2
12 月	16	9	54	3.4
1 月	15	8	56	3.7
2 月	12	10	56	4.7
3 月	12	7	45	3.7
合 計	177	121	642	3.6

(登録者数 28 名)

注) 4-5 月は進級児のみ対象、新入児は 6 月より対象とした。

5 2024 年度まとめ

(1) 療育づくり

今年度は57名でスタートした。2歳児5名が入園。毎日通園することで生活経験が積み上がり、食事面での課題が柔らかく変化したり、ゆったりとしたあそびの中で友だちへの関心が育ってきた。昨年4歳児で入園した6名の子どもたちの姿からも、2歳児（低年齢）に入園し安心できる環境の中で毎日の生活を重ねていくことは、子どもたちの力につながると確認できた。また、今年は年長児18名と多く3クラスに分かれたが、年長保育を1年通して取り組み、クラスを超えた友だち関係を含め、宿泊や園外保育など取り組んだ。

昨年度に行事計画を見直し、実践してきた1年。年2回のまとめの行事についても、ねらいの持ち方、やり方、名称を変えて取り組んだ。実際とりくんでみたところで次年度への課題も見えた。

(2) 家族支援

年度途中で、2名の外国籍の子が転居。年度末には1名、母国への帰省を決めた。クラス役員、保護者がフォローはしていたが、言葉の壁や孤立感、安定した仕事をし日本で生活するなど、いろいろな条件は重なったが、その家族を丸ごと受け止められたのか？保護者支援の難しさや不十分さを感じる。

保護者の病気療養に伴い、施設入所を決意した年長児家族。保護者同士のつながりやりハビリなどそよ風との関係はつながっている。入所施設も含めた乳幼児期の子にとっての日常生活や療育保障を改めて、施設種別を超えて制度矛盾を解決していきたい。

菜の花保育園に2年通っているTさんが、次年度通園部へ転園し通園をするために、保護者就労に合わせて、入園より一足先に、親子療育を開始している。Tさんに療育の機会を保障すること、保護者の就労を保障することを大切に保育園と共に、話し合いを重ねてこの方向に至った。

(3) 保育者集団づくり

職員集団は、7名の新規職員を迎えての仕事づくりとなった。前半期は、日々の保育をすすめることに精一杯であったが、後半期は、新規職員も一緒に子どもの姿に悩み、考えあえるようになってきた。

今年度は、報酬改定があり、新たな加算の記録や資料作成がさらに増えた。働き方の見直しは引き続きの大きな課題であるが、職員集団の中からは「子どものことをもっと話したい」という声が多く聞かれ、そよ風で大切にしている「子どもから出発する」療育が、職員集団の中で脈々と伝えられながら日々の療育が行われていることを感じる。そういった職員の願いを日々の業務にどう位置付けていくかは責任者の課題である。

6 児童の状況

表 4－1 障害種別状況

2024 年 3 月末現在

障 害 種 別	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
知 的 障 害		4	11	1	2	18
自 閉 症					1	1
自 閉 症 + 知 的 障 害		1	8	7	10	26
知的障害 + 肢体不自由			1	1	2	4
肢 体 不 自 由						0
重 症 心 身 障 害			2	1	1	4
そ の 他 保 健				1		1
計		5	22	11	16	54

表 4－2 障害程度別状況

障 害 程 度	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
最 重 度			2	1	2	5
重 度			2	1	4	7
中 度		2	11	6	8	27
軽 度		3	7	3	2	15
非 該 当						
計		5	22	11	16	54

注) (1) 身障、愛護両方所持の場合、程度区分は重いほうを基準として分離した。

(2) 未所持の児童に対しては発達指数により障害区分を分類した。

表 4－3 手帳所持状況 愛護手帳

愛 護 手 帳	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
1 度			2	1	2	5
2 度			2	1	4	7
3 度		2	8	6	8	24
4 度		3	7	2	2	14
未 所 持			3	1		4
非 該 当						
計		5	22	11	16	54

表 4－4 身体障害者手帳

身体障害者手帳		1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
Ⅰ 種	1 級				1	1	2
	2 級			2	2		4
	3 級			1		2	3
	4 級						
	5 級						
	6 級						
Ⅱ 種	1 級						
	2 級						
	3 級						
	4 級						
	5 級						
計				3	3	3	9

表 4－5 区別状況

2025 年 3 月現在

区	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
南 区		0	6	2	14	22
緑 区		4	16	9	2	31
港 区		1	0	0	0	1
計		5	22	11	16	54

表 4－6 通園日数

通 園 日 数	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
1 日				
2 日				
3 日				
4 日				
5 日	5	22	11	16

表 4－7 月別児童数

入 退 園	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
初 日 在 園	57	57	57	57	56	56	55	54	54	54	54	54
月 末 在 園	57	57	57	57	56	56	55	54	54	54	54	54

表 4－8 在園期間 2025 年 3 月末（退園児含む）

在 園 期 間	児童数	平均在園期間
1 年 未 満	0	1 年 9 ヶ月
1 年以上 2 年未満	28	
2 年以上 3 年未満	14	
3 年以上 4 年未満	14	
4 年以上 5 年未満	1	
5 年以上 6 年未満	0	
計	57	

表 4－9 卒退園児の進路先と平均在園期間

卒 園	特別支援学校	肢 体	2	8
		知 的	6	
退 園	支 援 級		8	8
	保 育 園（公）		5	11
	保 育 園（民）		6	
	幼 稚 園（公）		1	1
	幼 稚 園（民）		0	
	転 居		3	3
	特別支援学校 幼稚部		1	1
	入 所		1	1

在 園 期 間	卒 園	退 園
1 年 未 満	0	0
1 年以上 2 年未満	0	3
2 年以上 3 年未満	3	0
3 年以上 4 年未満	12	0
4 年以上 5 年未満	1	0
5 年以上 6 年未満	0	0
計	18	3
平均在園期間	2 年 11 ヶ月	1 年 6 ヶ月

第 5 地域支援調整事業

2023 年 7 月に地域支援調整部門が設置され、2024 年度は本格的な事業開始となった。各事業、内容や回数の充実を図った。

1 地域連携

表 5－1 保健センターとの連携

派遣先	乳幼児発達相談(親子教室)		連絡調整・ケース会議		
	職員	回数	職員	回数	備考
南保健センター	ケースワーカー・保育士	12	ケースワーカー・保育士・保健師・心理	2	事業所説明・連絡会各 1 回
緑保健センター			ケースワーカー・保健師	2	事業所説明・連絡会各 1 回

注) 緑保健センター・徳重分室での親子教室については実施形態が変更となり派遣依頼無し

表 5－2 保育所等の関係機関との連携(職員向け研修・職員派遣等)

内 容	回数	対 象					
		保育所	幼稚園	保健 C	民生子ども課	事業所	その他
緑区エリア別保育研修交流会	3	3					1
南区エリア別保育研修交流会	1	1					1
南区保育士会主催研修	1	1					
緑区園長会主催研修	1	1					
758 キッズステーション 子育て支援施設職員向け研修	1						1
特別支援教育のための専門家チーム	14						14

注) その他には、学校、地域型保育事業所を含む

表 5－3 保育所等の関係機関との連携(会議)

	会議名	回数	構成機関	出席職員
南区	南区障害児療育連絡会	2 回	保育所・幼稚園・認定こども園・小規模保育事業・地域療育センター・児童発達支援センター・保健センター・区役所民生子ども課	ケースワーカー・保健師・心理・保育士・児童指導員通園園長・相談診療部長・副部長
緑区	緑区障害児療育連絡会	2 回	保育所・幼稚園・認定こども園・地域療育センター・児童発達支援センター・保健センター・区役所民生子ども課	ケースワーカー・保健師・心理・保育士・児童指導員・相談診療部長・副部長

表 5-4 いこいの家との連携

	個別相談		保護者向け学習会		連携会議	
	職員	回数	職員	回数	職員	回数
南区 mimi			ケースワーカー・保育士・心理	6	CW	1
緑区 葡萄の木			心理・ケースワーカー	2		

表 5-5 自立支援連絡協議会との連携

区	児童部会			相談支援部会		
	出席職員	回数	備 考	出席職員	回数	備 考
南区	副所長・園長	3		相談支援専門員	12	
緑区	副部長・保育士	6	障害児支援連絡会	相談支援専門員	12	
	副部長・保育士	5	障害のある子どもを支えるネットワーク			

* 南区自立支援連絡協議会には、幹事会に副所長・通園園長が5回、みなみっこフェス実行委員会に通園園長が7回参加した。

* 緑区自立支援連絡協議会運営会議に相談診療部長が3回出席した。

表 5-6 その他地域関係機関との連携

会議名	回数	出席職員	備考
事業所説明会	23	ケースワーカー	児発、相支事業所・訪看など
子育てネットワーク会議緑区	6	保健師	幹事会4回/年 連絡会2回/年
子育てネットワーク会議南区	6	保健師・ケースワーカー	連絡会5回・南区わくわく子育てまつり
地域型保育事業所巡回へのエリア支援保育所同行訪問	1	ケースワーカー・心理	緑区エリア支援保育所園長補佐
地域子育て支援センター懇談	8	ケースワーカー・心理・保健師	鳴子・宝・ほしざき・めぐみ・神の倉清涼・丘の上・しおみがおか・菜の花
エリア支援保育所連携懇談	5	ケースワーカー・心理・保健師	宝・鳴子・東丘・のりくら保育園
園長会議における事業説明	2	副部長(ケースワーカー)	
南区エリア支援保育所保育交流	1	ケースワーカー・保育士	宝保育園
こども応援委員会 懇談	2	ケースワーカー・心理・保健師	
児童発達支援事業所見学・懇談	1	ケースワーカー・心理・相談支援専門員	
その他退院時カンファ、ケース会議	22	ケースワーカー・心理・保育士・看護師・保健師・相談支援専門員など	事業所・訪看・保健センター・医療機関・学校など

表 5-7 保護者向け勉強会等

内容	回数	職員	備考
子育て支援センター子育て講座	25	PT・ST・心理・ケースワーカー	鳴子・宝・めぐみ・ほしざき・菜の花・神の倉清涼・丘の上・momo・森の実・758 キッズステーション
緑区「発達が気になる親の集い」	3	ケースワーカー	保健センター・基幹・いこいの家共催
南区 親のつどい	3	ケースワーカー	保健センター事業

2 巡回療育指導

保育園、幼稚園、認定こども園、学校、地域の関係機関に通っている児童について各種の相談に応ずるとともに、保育・教育あるいは家庭療育に関する必要な助言及び指導を行った。なお、園からの申し込みにより当センターに受診歴の無い児童についても、助言及び指導を行った。今年度より新たにフォローアップ巡回（同じ児童を対象に期間を空けて2度巡回を行う）を行った。

〈対象児〉

- ・児童発達支援センターから保育園・幼稚園・認定こども園へ就園した児童及び小学校に就学した児童
- ・保育園・幼稚園・認定こども園又は学校から相談を受けた児童（未受診児を含む）

表5-8 月別巡回療育指導状況

(2024年度、単位：件、人)

	区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談診療部	件 数	1	3	12	9	5	12	15	10	8	5			80
	人数(既受診児)	1	3	9	6	2	17	16	4	6	3			67
	人数(未受診児)		3	19	14	8	13	14	17	8	7			103
通園部	件 数	3	3	2										8
	人数(既受診児)	3	3	2										8

注) (1) 延べ178人を対象に実施した。

(2) 初診前巡回については、初診前サポート事業に記載した。

表A 臨時巡回実施件数（再掲）

(2024年度、単位：件、人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件 数	1						1						2
保護者希望													0
園 希 望	1						1						2

注) 通常巡回とは別に、保護者・園からの申し入れにより必要に応じて巡回を行った。

表B 地域型保育事業所巡回実施件数（再掲）

(2024年度、単位：件、人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件 数							1	1	1				3
人数(既受診児)							1						1
人数(未受診児)								2	2				4

表 C フォローアップ巡回実施件数（再掲）

（2024 年度、単位：件、人）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件 数		3	8	1					7	5			24
人数（既受診児）		3	3						6	3			15
人数（未受診児）		3	12	1					6	7			29

注）12ヶ所に巡回を行った。

表 5－9 巡回療育指導施設数 （2024 年度、単位：ヶ所）

区 分	南区	緑区	港区	計
保 育 所	11	33		44
幼 稚 園	1	7		8
認定こども園	6	12		18
学 校	1		1	2
そ の 他		1		1
計	19	53	1	73

注）その他は、企業主導型保育園である。

表 5－10 巡回療育担当スタッフ

（2024 年度、単位：件）

ケース ワーカー	発達相談	理学 療法士	作業 療法士	言語 聴覚士	保育士・児 童指導員	保健師・ 看護師	相談支援 専門員	その他	計
21	133	3	12	23	18	3			213

表 5－11 児童の状況

（2024 年度、単位：人）

障 害 種 別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小学校	中学生以上	計
知 的 障 害			1	4	6	1		1	13
自 閉 症			1	3	4	5			13
自閉症＋知的障害			1	5		3	1		10
肢 体 不 自 由	1								1
肢体不自由＋知的障害									0
言 語 発 達 障 害 等		1	7	10	9	4			31
重 症 心 身 障 害							1	3	4
未 決 定				1					1
そ の 他 保 健			1		1				2
計	1	1	11	23	20	13	2	4	75

3 訪問療育指導

- ・支援の必要性、目的に応じて訪問する専門職を検討し、訪問した。

〈対象児〉

- ・重症心身障害の児童
- ・児童相談所との連携が必要な児童
- ・通所が困難な児童
- ・早期受診の児童
- ・療育上家庭での指導が必要な児童

表 5－12 訪問療育指導月別状況

(2024 年度、単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	3		3	2		1		2	2	1	2	3	19
延べ人数	3		3	2		1		2	2	1	2	3	19

表 5－13 訪問療育担当スタッフ

(2024 年度、単位：件)

ケース ワーカー	リハビリ	療育スタッフ (保育士)	保健師	看護師	相談支援 専門員	発達 相談員	通園	計
6	1	2	12	5	3	2	7	38

表 5－14 訪問療育児童の状況

(2024 年度、単位：人)

障 害 種 別	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
肢体不自由＋知的障害	1						1
知 的 障 害	1	1					2
そ の 他 保 健	4						4
自 閉 症 ＋ 知 的 障 害			1				1
自 閉 症	1						1
未 受 診	1			1			2
計	8	1	1	1			11

注) 年齢は学年齢である。

4 通園部アフターケア

あそび虫クラブ

2024. 5月～2025. 3月の間、月に1回土曜日の午前中に、そよ風を卒園して、特別支援学校または、特別支援学級に在籍をしている小学4年生～高校3年生の児童を対象に、子どもたちの興味や余暇を充実させることをねらいに、学年齢に分かれて3つのプログラムを実施した。夏のプログラムも、2泊3日小那比キャンプ、デイキャンプ、重心親子海水浴プログラム、重心デイプログラム、きょうだいプログラムなど行った。

表5－15 リトルあそび虫（小学校低学年）

実施日	プログラム	参加人数
5/11	セントレア	8組
7/28	小那比デイキャンプ	11組
9/7	交流会	3組
12/21	パンづくり	9組
3/15	陶芸体験	12組

表5－16 小学4年生から高校3年生のサークル活動

	太鼓サークル	クッキングサークル	陶芸サークル	水泳サークル
登録数	9名	5名	2名	8名
5月	7	3	2	3
6月	8	3	2	8
7月	2	1	1	8
9月	7	3	2	8
10月	8	4	2	7
11月	9	4	2	5
12月	6	4	1	6
1月	7	3	2	6
2月	8	5	2	7
3月	7	5	2	7

長期休暇プログラム

あそび虫クラブは岐阜県郡上市小那比の法人野外活動センターにて2泊3日キャンプを実施した（デイサービス ACT、デイサービスみどりそよ風と合同）。リトルあそび虫は、小那比で親子デイキャンプを行った。きょうだいプログラムは、野外活動センターで1泊2日のキャンプを行った。重心プログラムは、夏に親子海水浴プログラムを行い、海の経験を親子で楽しんだ。冬に単独デイプログラムを行い、昼食は「あさくま」で外食をし、夕方からタテカコさんのクリスマスコンサートに参加した。

5 アフターケア

表 5－17

とりくみ	実施日	対 象	数	内 容
アフターをつどい	5/20	転園、卒園した 新 1 年生の保護者	14 名	学校の様子やデイでの様子、悩みなど交流する。
18 歳のつどい	2/15	2024 年度 18 歳を迎える子	15 組	卒園児や転園児が参加。当時の写真スライドやアルバムを見て、思い出を語ったり、春からの抱負を聞いた。

6 そよ風広場

3 か月に 1 回、土曜日の午前中にそよ風通園、デイサービス A C T、デイサービスみどりそよ風の児童発達支援から転園した就学前の親子を対象に、親子で楽しく休日を過ごすこと、経験を広げることを大切に様々なプログラムを取り組んだ。また、保育園や幼稚園での悩みをお母さん同士が話せる場や、親御さん同士のつながりを大切に交流をした。

実施日	プ ロ グ ラ ム	参加親子
7/6	室内プール	2 組
11/30	パンづくり（講師 那須田宏氏）	6 組
1/18	もちつき	5 組

7 きょうだいプログラム

2024 年度通園部に通っている子ども及び、以前に通園部に通っていた子どものきょうだい（小～高校生、社会人）を対象とし、3 ヶ月に 1 回集ってプログラムを行った。

実施日	プ ロ グ ラ ム	参加人数
6/15	自己紹介、キャンプに向けての話し合い	12 名
8/3	キャンプに向けたサマースクール	17 名
8/9～10	小那比 1 泊 2 日キャンプ	17 名
11/23	社会館バザーの出店	9 名
3/13	中学生、高校生、社会人対象ピザづくり	6 名

8 施設・プール開放

- ・同法人内のデイサービス A C T、デイサービスみどりそよ風、発達センターあつた、活動センターねーぶる、ちどり児童会にも開放し、年 40 回のべ 333 名が利用した。
- ・そよ風の在園児、転園児、そよ風を経過した学齢児親子を対象に、木曜日にプール開放した。年 14 回のべ 78 名が利用した。

9 地域啓発・ボランティア育成

- ・例年行っている、社会館夏まつりは雨天のため、中止となった。社会館バザーは例年通り実施したが、ボランティアの受け入れはしなかった。

10 保育所等訪問支援事業

表 5－18 保育所訪問支援事業の実施件数

区分	南区	緑区	計
保 育 園	2	4	6
子 ども 園			
幼 稚 園			
計	2	4	6

表 5－19 保育所等訪問支援事業の月別実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問件数	4	4	3	4	4	6	6	7	7	7	6	3	58
実 人 数	2	2	2	2	2	3	3	4	5	5	3	2	35

表 5－20 保育所等訪問支援事業の職種別延べ訪問件数

CW	心理担当	PT	OT	ST	保育士・ 児童指導員	保健師・ 看護師	その他	計
		1			57			58

- ・ 6名の訪問支援を行った。
- ・ 期間は、概ね3ヶ月～1年、月に1～2回訪問した。
- ・ 継続児は、2名、新規が4名だった。
- ・ ケース内容によって、理学療法士が同行して支援を行った。

第 6 児童デイサービス

1 デイサービス A C T

(児童発達支援事業所と放課後デイサービスの多機能型事業所)

(1) あいあい組 (児童発達支援：週 2 日登園、通園待機児を含む 1, 2 歳児クラス)

① 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
乳 幼 児	契 約 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	-
	開所日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	8
	利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	8
	平均利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1

・ 2 月から通園待機児 1 名を対象に行う。

② 児童の状況

表 6 - 1 障害種別状況 (単位：人)

障 害 種 別	人 数
知 的 障 害	0
知的障害 + 自閉症	0
自閉症 + 知的障害	0
知的障害 + 肢体不自由	1
肢体不自由 + 知的障害	0
重症心身障害児	0
肢 体 不 自 由 児	0
自 閉 症	0
計	1

表 6 - 2 手帳所持状況 (単位：人)

愛 護 手 帳		身体障害者手帳		
1 度	0	I 種	1 級	0
2 度	1		2 級	1
3 度	0		3 級	0
4 度	0	II 種	1 級	0
未所持	0		2 級	0
非該当	0		3 級	0
計	1		計	1

表 6 - 3 進路状況 (単位：人)

進 路 先	人 数
児童発達支援センター	1
保 育 園 (公 立)	0
保 育 園 (民 間)	0
幼 稚 園	0
県 外 へ 転 居	0
在 宅	0
計	1

(2) デイサービス ACT（放課後等デイサービス）

対 象 名古屋市在住で、小学校、特別支援学級、特別支援学校に通う小学1年生～高校3年生。

実 施 日 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日… 14:00～17:30
土曜日（月2回）… 9:30～15:30

① 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契 約 数	31	31	30	31	31	31	31	30	30	30	30	30	-
開所日数	19	23	21	21	16	20	24	22	21	20	19	18	244
利用者数	104	143	133	134	76	130	170	146	136	146	127	118	1563
平均利用	5.5	6.2	6.3	6.4	4.8	6.5	7.1	6.6	6.5	7.3	6.7	6.5	6.4

② 契約状況

（単位：人）

曜 日	利用者 登録数	利 用 者 学 年												
		小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	
月 曜	8			1				2		1	3	1	1	
火 曜	8	1		3		2	2							
水 曜	9			1	1			6				1		
木 曜	6							3		1		1	1	
金 曜	10	1			2	3	3	1						
第 2・4 土 曜	11						1	5	1	1	1	1	2	

③ 長期プログラムの等の実施

- ・夏のキャンプは、感染に注意し2泊3日で行った。9名の参加があった。
- ・社会館バザーでは、子どもたちと企画運営の準備をし、ゲームコーナーの出店をした。
- ・学校の長期休業期間は、開所時間を9:30～15:30にした。
- ・8月に家族海水浴をデイサービスみどりと合同で行う。デイサービス ACT からは1名の参加があった。
- ・春休みには、高校3年生の卒業記念として、リトルワールドへの外出を取り組んだ。また、6年生の卒業記念として、南知多ビーチランドの外出を取り組んだ。

2 デイサービスみどりそよ風

(児童発達支援事業所と放課後デイサービスの多機能型事業所)

(1) くじらグループ (児童発達支援：2日登園、2歳児)

① 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
乳 幼 児	契 約 数	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	-
	開所日数	7	8	8	7	5	8	9	9	8	8	7	89
	利用者数	17	21	21	18	9	23	26	26	22	29	24	254
	平均利用	2.4	2.6	2.6	2.5	1.8	2.8	2.8	2.8	2.7	3.6	3.4	2.8

- ・週2回、(火・金)で実施。
- ・週2日療育を希望する4名の親子を対象とした。
- ・親子でたっぷりあそぶことを通して、お母さん大好きのがもちが育った。自我が育ち、大人からお友だちへの関心が膨らんだ。

② 児童の状況

表6-4 障害種別状況 (単位：人)

障 害 種 別	人 数
知 的 障 害	1
知的障害＋自閉症	2
自閉症＋知的障害	0
知的障害＋肢体不自由	0
肢体不自由＋知的障害	0
重症心身障害児	0
肢 体 不 自 由 児	0
自 閉 症	1
言 語 発 達 遅 滞	1
計	4

表6-5 手帳所持状況 (単位：人)

愛 護 手 帳			身体障害者手帳			
1	度	0	Ⅰ 種	1	級	0
2	度	0		2	級	0
3	度	0		3	級	0
4	度	2	Ⅱ 種	1	級	0
未 所 持	1			2	級	0
非 該 当	1			3	級	0
計		4		計		0

表6-6 進路状況 (単位：人)

進 路 先	人 数
児童発達支援センター	3
保 育 園 (公 立)	1
保 育 園 (民 間)	0
幼 稚 園	0
県 外 へ 転 居	0
在 宅	0
合 計	4

(2) みどりそよ風（放課後等デイサービス）

対 象 緑区、南区内居住で、小学校、特別支援学級、特別支援学校に通う小学１年生～中学３年生。

実 施 日 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日 … 14:30～17:30
土曜日（月１回）… 9:30～15:30

① 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契 約 数	24	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	
開所日数	18	23	21	21	16	20	24	21	21	20	18	18	241
利用者数	96	137	127	132	95	116	133	125	111	113	102	112	1399
平均利用	5.3	5.9	6.0	6.2	5.9	5.8	5.5	5.9	5.2	5.6	5.6	6.2	5.7

② 契約状況

曜 日	利用者 登録数	利 用 者 学 年									
		小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	
月 曜	7	1			1	3	1	1			
火 曜	4					3	1				
水 曜	10	1			2	4	1	2			
木 曜	8				3	3	1		1		
金 曜	4	1				1		1		1	
土曜(月 1 回)	10	1			1	4	1	2	1		

③ 長期プログラムの等の実施

- ・夏のキャンプは野外活動センターにて２泊３日で行った。17名の参加があった。
- ・8月に家族海水浴をデイサービス ACT と合同で行い、デイサービスみどりからは３組名10名の参加があった。
- ・春休みには、小学6年生３名の卒業記念として、宿泊プログラムとして「のんほいパーク（豊橋）」に出かけ、デイみどりで１泊を取り組んだ。
- ・学校の長期休業期間は、開所時間を9：30～15：30にした。

第 7 障害児相談支援事業所

障害児相談支援事業所そよ風

- ・相談支援専門員 3 名（専従 1 名、兼務 2 名）で基本相談、計画作成、モニタリング等を実施してきた。
- ・管理している対象者は 0 歳～ 10 歳児（小学 5 年生）と年齢層の幅が広い。一定数 9 歳児（小学 3 年生）以降の計画相談を受けているが地域の相談支援事業所移行もすすめ、数が減少している。
- ・基本相談の中でも家族や幼稚園、保育園、学校等の相談が増えている。対象児を取り巻く環境に対しての相談が増えていてサービスとともに必要時に調整等することもある。

表 7－1 管理数

（2024 年度、単位：人）

居住区	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	6 歳児	7 歳児	8 歳児	9 歳児	10 歳児	合計
南区	1	4	7	10	11	8	6	3	1	2	1	54
緑区	2	16	22	32	28	33	9	11	6	4		163
港区			1			1	1	1		1		5
計	3	20	30	42	39	42	16	15	7	7	1	222

表 7－2 支援実績

（2024 年度、単位：件）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
計 画 作 成	19	15	17	11	13	14	14	6	14	15	25	20	183
本 計 画 作 成	66	27	11	14	18	14	18	16	11	9	7	22	233
モニタリング	16	27	6	17	20	14	40	28	25	18	7	9	227
家 庭 訪 問	57	71	47	53	57	51	92	48	51	33	53	82	695

* モニタリング時に計画変更になることもあるので必ずしも実績が一致するものではない。

表 7－3 基本相談

（2024 年度、単位：件）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
家 庭 訪 問	11	6	7	3	7	4	9	7	4	1	9	14	82
来 所	10	8	14	8	6	6	0	4	1	3	4	6	70
電 話	78	66	83	44	31	40	55	48	26	45	66	45	627

表 7－4 基本相談の内容

（単位：件）

サービス利用等	子どもの発達・障害	子 育 て	幼・保・学校など	家 族	子どもの余暇等	そ の 他
525	36	50	280	459	1	211

* 重複計上

* その他とは上記カテゴリーに当てはまらなと判断した内容のものになる。

表 7－5 会議等

	開 催 日	構 成 メ ン バ ー	参 加 職 員
障害児相談支援運営連絡会	2024. 7.25 2024.12. 5	名古屋市 中央療育センター 各地域療育センター 各児童発達支援センター あけぼの学園	相談支援専門員
南区自立支援連絡協議会 相談支援連絡会	月一回開催	基幹相談支援センター 区内相談支援事業所 南区役所福祉課 南保健センター	相談支援専門員
緑区自立支援連絡協議会 相談部会定例会	月一回開催	基幹相談支援センター 区内相談支援事業所 緑区役所福祉課 緑保健センター	相談支援専門員
ケース会議・サービス調整会議	28 回 (必要に応じて開催・参加)	関係機関	相談支援専門員

第8 医療的ケア児等支援スーパーバイザー事業

2021年8月より、名古屋市から委託を受け“名古屋市医療的ケア児支援スーパーバイザーモデル事業”がはじまりました。

〈事業内容〉

- (1) コーディネーターに対するスーパーバイズ
- (2) コーディネーターと医療、保健、福祉、教育等の関係機関等の連携促進
- (3) 支援難度の高い医療的ケア児への個別的な相談支援
- (4) コーディネーター養成にかかる協力
- (5) 地域における社会資源の開発
- (6) 周知広報
- (7) 関係会議への出席 ほか

2024年度の事業実績は以下の通りです。

1. コーディネーターに対するスーパーバイズ

(2024年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話相談	46	17	35	23	29	15	29	19	22	25	14	6	280
来所相談	2	4	8	2	5	10	3	5	5	4	1		49
訪問相談	2	1	1	2	1	1	1	2		3	1		15

*電話相談には、医療的ケア児等コーディネーターの調整も含む。

2. 支援難度の高い医療的ケア児への個別的な相談支援

(2024年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話相談	26	49	55	53	25	44	38	53	30	48	52	60	533
来所相談	6	12	9	6	5	6	7	3	6	6	3	5	74
訪問相談	9	4	5	9	5	6	4	9	6	6	10	13	86

*電話、訪問、来所以外にメールでの相談もある。

3. 周知・広報

(2024 年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医 療 機 関	2			1									3
保 育 園 ・ 学 校		1					1		1				3
訪問看護・訪問リハ		1	2	2	3				2		1		11
療 育 セ ン タ ー 等													0
障害福祉サービス事業所	1	1	4		1	1	1	1		1		1	12
相 談 支 援 事 業 所		5	6	5			1				1	1	19
保 健 セ ン タ ー			2							1			3
そ の 他 関 係 機 関				1		1						2	4

注) その他の関係機関は「子ども応援委員会」「教育委員会」「児童相談所」「親の会」

4. 関係機関調整・会議等

〈関係機関調整〉

退院時カンファレンス 担当コーディネーターと同行

サービス担当者会議 情報共有会

〈会議・研修等〉

会議・研修名	主 催
医療的ケア児等コーディネーター養成研修、フォローアップ研修	愛知県・名古屋市
各ブロック医ケア児支援コーディネイター交流会	だいでう医療的ケア児支援センター
だいでう・にじいろ医療的ケア児サポート研修会	だいでう医療的ケア児支援センター
療育センター、児童発達支援センター医療的ケア児等コーディネーター交流会	名古屋市
市内各区自立支援連絡協議会部会	各区基幹相談支援センター

資料 センター利用者数の10年間の推移（2015年度～2024年度）

新規相談件数（区別）

（単位：件）

年 度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
南 区	103	105	127	126	144	111	132	114	120	129
緑 区	273	290	327	291	284	309	330	300	315	292
熱田区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
港 区	9	5	7	7	4	2	8	11	4	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
計	385	400	461	424	432	422	470	425	439	430

新規相談件数（年齢別）

（単位：件）

年 度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
0 歳	16	23	13	16	12	12	7	8	4	10
1 歳	33	28	47	47	42	47	65	56	60	44
2 歳	113	87	154	127	143	151	146	120	141	122
3 歳	113	135	132	115	121	97	134	103	105	118
4 歳	49	58	56	59	53	55	62	72	67	71
5 歳	53	51	42	49	46	48	43	52	52	50
6 歳	8	18	13	11	15	12	13	14	10	15
小学校低学年	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
小学校高学年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	385	400	461	424	432	422	470	425	439	430
1.2歳児初診			221	213	220	235	258	223	231	218
合 診			38	43	37	36	36	28	29	26
一般初診			202	168	175	151	176	174	179	186

継続相談延べ件数

（単位：件）

年 度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
件 数	1123	1137	1063	1000	1010	1033	1025	986	1007	1020
実人数	824	816	806	774	773	802	840	830	841	828

療育グループ延べ参加人数

(単位：人)

年 度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
就園前グループ	3860	3172	2960	3411	2797	1824	2122	2627	2924	2438
並行グループ	564	581	561	397	412	381	451	420	421	354
計	4424	3753	3521	3808	3209	2205	2573	3047	3345	2792

小児科診察件数

(単位：件)

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
初診（実）	385	400	461	424	432	422	470	425	439	430
再診（のべ）	321	362	453	563	563	749	778	804	792	741
計	706	762	914	987	995	1171	1248	1229	1231	1171

整形外科科診察件数

(単位：件)

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
初診	47	55	51	44	45	44	40	43	40	38
再診	900	587	942	538	564	525	493	485	477	397
計	947	642	993	582	609	569	533	528	517	435

精神科診察件数

(単位：件)

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
初診	4	4	4	4	2	2	0	4	5	2
再診	75	55	69	77	57	62	62	57	54	39
計	79	59	73	81	59	64	62	61	59	41

耳鼻科診察件数

(単位：件)

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
初診	184	149	90	190	145	110	121	180	181	127
再診	442	274	178	223	262	125	128	85	79	55
計	626	423	268	413	407	235	249	265	260	182

理学療法訓練延べ件数

(単位：件)

年 度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
件 数	2,436	2,411	2,239	1,953	1,935	1,983	1,803	1,727	1,504	1,361

作業療法訓練延べ件数

(単位：件)

年 度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
件 数	1,605	1,849	1,689	1,691	1,425	1,400	1,374	1,354	1,399	1,319

言語聴覚療法訓練延べ件数

(単位：件)

年 度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
件 数	1,813	1,532	1,866	2,034	1,578	1,538	1,506	1,258	1,322	1,316

巡回療育実施件数（職員派遣数）

(単位：人)

年 度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
件 数	140	115	125	109	111	50	102	115	186	213

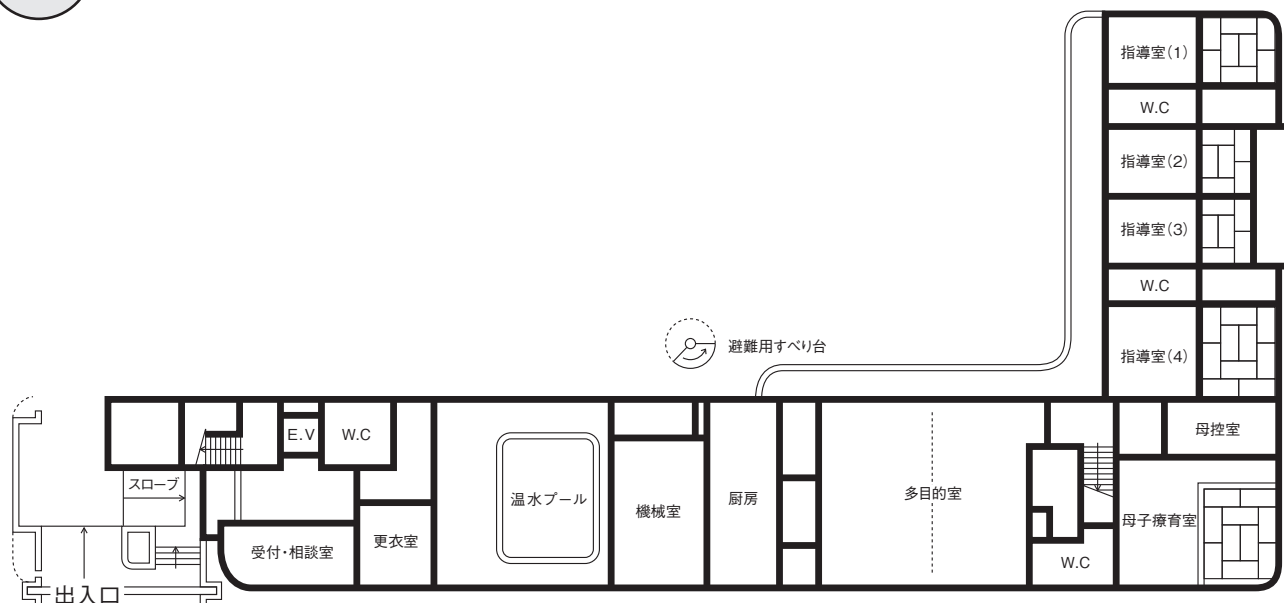
訪問件数

(単位：件)

年 度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
回 数	14	10	21	22	9	24	20	9	15	19

平面図

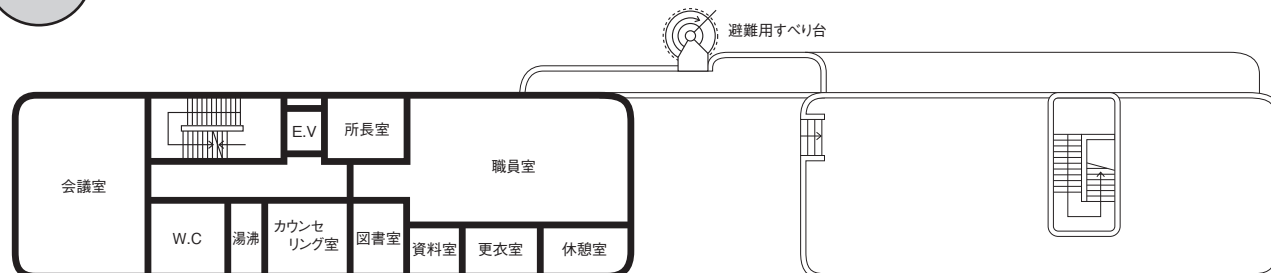
1階

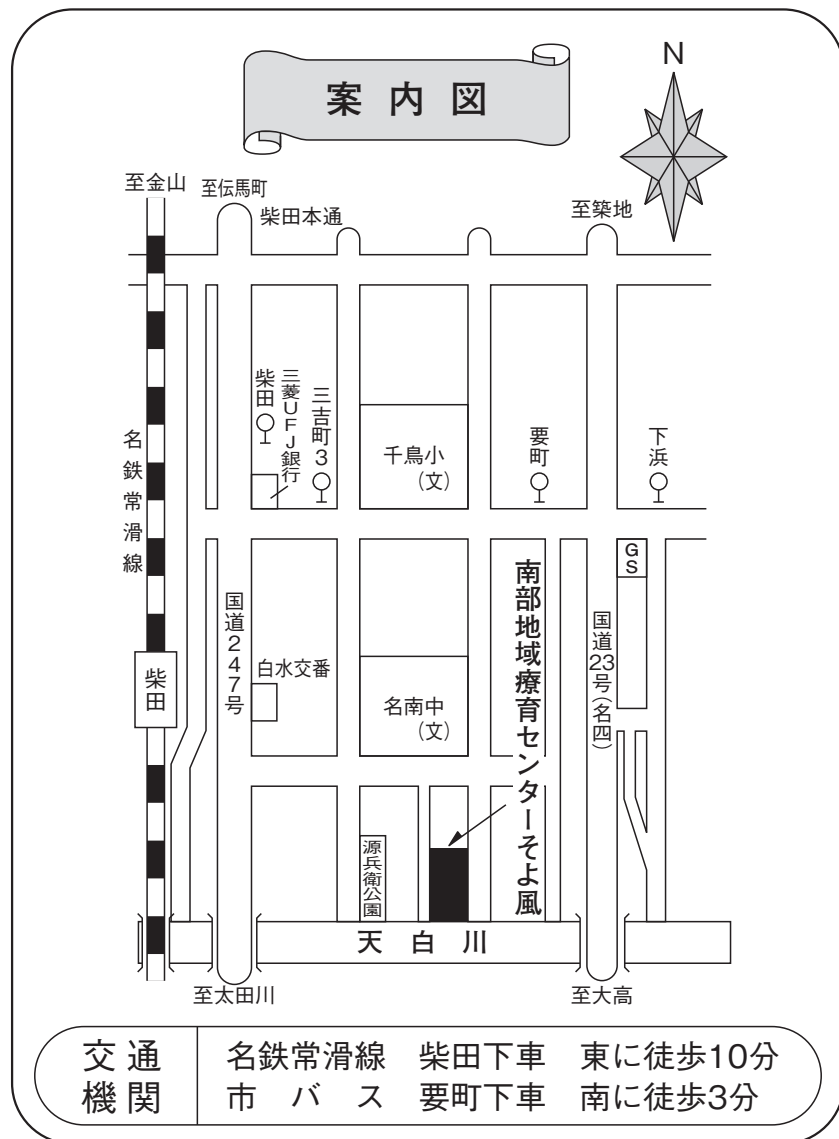


2階



3階





2025 年 8 月発行

発行者

社会福祉法人名古屋キリスト教社会館
南部地域療育センターそよ風
〒457-0805 名古屋市南区三吉町 6-17
TEL 052(612)3357・FAX 052(612)3411

南部地域療育センターそよ風は、
すべての子どもの成長発達を願い
早期療育、地域療育をすすめます。